

# JATA

http://www.jata-net.or.jp/ **Communication**

じゃたこみ

1

2013年  
1月10日発行  
vol.71

発行 一般社団法人 日本旅行業協会  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-3 全日通費が関ビル3階  
TEL:03-3592-1271(代表) TEL:03-3592-1244(広報)  
FAX:03-3592-1268



復興支援プロジェクト・フォトレポート  
JATA初の試みに約1000人が集結  
東北の皆様ありがとうございました

素材研究 (海外) ダージリン (国内) 慈恩寺

## 謹賀新年

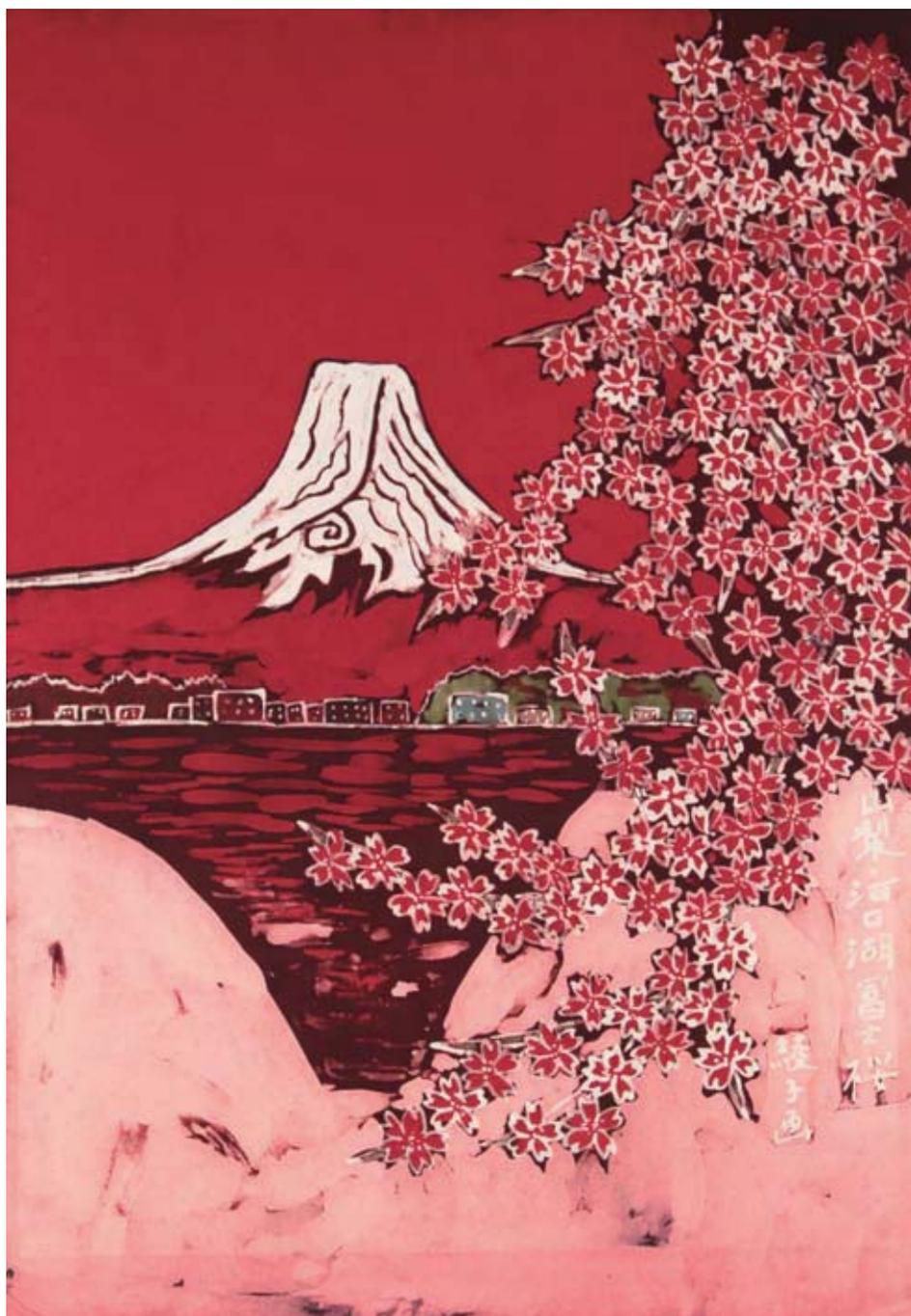
新春トップ対談

「満足度の向上」が観光立国のキーワード

2013年を旅行業における「価値創造元年」に

井手憲文 観光庁長官 × 菊間潤吾 JATA会長

委員長・支部長が語る新年の抱負と意気込み



# 「満足度の向上」が観光立国のキーワード 2013年を旅行業における「価値創造元年」に



観光立国への期待と抱負を語る井手憲文・観光庁長官と菊間潤吾 JATA 会長（観光庁長官室にて）

昨年は、東日本大震災の影響からいち早い回復を示した日本の旅行市場。明けて2013年は、旅行業による主体的なマーケット創造の動きや地域限定旅行業による着地型商品の拡充など、新たな潮流の加速も予想されます。新しい年への期待と抱負を、観光庁の井手憲文長官と菊間潤吾会長に語り合っていました。

## 安心安全の確保を企業文化に

—— 明けておめでとうござい  
ます。新しい年への期待と抱負を  
お聞かせください。

**井手長官** 昨年は、日本の旅行市場が東日本大震災の影響からいち早い回復を示す一方で、安心安全の確保が旅行業界の責任として問われる形にもなりました。国内旅行・海外旅行・インバウンドの各分野において、しっかりと良いサービスを提供していただくことが出発点になりますが、安全に対する取り組みの問題意識も求められます。どこまで責任があるかという厳しい法律論とは別に、旅行サービスを提供する旅行会社として、経営トップから企画や手配を行う現場のレベルまで、企業文化

として安全の意識を根付かせて欲しいと思います。

また、有識者の皆さんによる観光産業政策検討会や経営トップの方々に自由闊達な議論をしていただく観光立国推進ラウンドテーブルなどを通じて、旅行業界全体としてどうレベルを上げていくかということをやっていかなければなりません。また、アウトバウンドとインバウンドは自然体で行っても、右肩上がりの成長を期待できるので、いちばん難しいと思われる国内旅行の分野でいろいろな工夫をしていく必要があります。

**菊間会長** 長官の話された安全の問題については、業界団体として安全のためのガイドラインを整備し、自らのものとしてどこまで会員に指導できるかが問われると気を引き締めています。また、私が

**井手 憲文**  
国土交通省観光庁長官

×

**菊間 潤吾**  
日本旅行業協会会長



観光立国実現に向けて固い握手

JATA会長に就任して、最初に政策検討特別委員会を設置しましたが、これまで委員会マターとして取り組んできたものを、もっと業界全体を俯瞰しながら課題を抽出し、それを改めて委員会に投げかけて業界を活性化させていかなければと考えています。

さらに、インバウンド振興をはじめとする観光庁の様々な施策を通じて、観光の経済効果が各方面から認識されるようになり、特に、これまで訪日旅行を重視していた地方自治体も、改めて、需要の大きい国内旅行にも目を向けてきています。そうした傾向は、JATAとしても非常にありがたく、新たに導入される地域限定旅行業によって、地元に住んで地元を愛し、地元の良さを知ってもらいたいとの熱い思いが着地型商品として形になっていけば、旅行の

# 観光立国実現への期待と抱負を語る



井手憲文・国土交通省観光庁長官  
 <略歴>  
 昭和51年東京大学法学部卒業、同年運輸省入省。平成8年航空局監理部国際航空課長に就任。その後、16年大臣官房審議官、19年総合政策局情報管理部長、22年国土交通省海事局長などの要職を歴任。24年4月から観光庁長官に就任している。

質を上げることになるはずですが。旅行業界としても、そうした商品流通にのせて、多くの人に紹介していくことで、国内旅行にも新たな局面が生まれてくるのではないかと考えています。

## 業界として開発力を高めたい

——海外旅行市場については、いかがですか。

菊間会長 2013年は、旅行業界自身が主体的にマーケットを創造していく最初の年になるのかなと思っています。従来もいろいろな試みを重ねてきましたが、これまで以上に本格的な取り組みを開始する計画で、旅行業における価値創造元年というようなイメージを持っていきます。LCCによる日本市場への本格参入やオンラインエージェントなどの台頭によって、旅行業の役割というものがより明確になってきました。サブプライヤーによる直販や価格競争が進む中で、旅行会社が本当の意味

で満足のできる商品を提供しなければ、旅行会社を使う意味がなくなるという時代に入ってきています。そういう時代にあつて、われわれ自身もつと現地のさまざまな良いものを見出して価値をつくり上げる、あるいは、旅の良さをもっとクローズアップして紹介するということを自主的にやっていかねばなりません。欧州方面におけるチームヨーロッパやASEANとの連携によるプロモーションなどを通じて、われわれが主体的に関わって自らが価値をつくり出していく形を実現していかないと、旅行者の数は伸びても、旅行会社が置き去りにされてしまう可能性があると思います。

今年をスタートの年として、そうした部分を強化して、旅行業界としての開発力を高めていきたい。日本の海外旅行市場では、東アジアだけで5割のシェアを占めています。欧州やASEAN・インドシナ諸国、北中南米といった方面も拡大していくことは、旅行業界全体の経営という観点からの危機管理にもつながります。そ

うした価値創造のために、会員会社のスキルアップをどうお手伝いしているのかも、2013年の大きなテーマです。

## 井手長官 かつての航空業界などが行っていたのはマクロの需要創造だったわけで、旅行業界に求められているのは、旅行の内容で勝負する開発力です。例えば、オンラインのブックイングが今までの旅行業界の予約のシェアを奪うという意味合いで、旅行業界とITとの競争というような言われ方をしますが、本当は、個別の旅行会社のノウハウやデステイネーションの知識と、ITを使った消費者の知識との競争だと考えています。もちろん、個々の社員が全てその競争に勝つというのは不可能でしょうから、旅行会社が企業全体としてのノウハウや知識力で消費者を凌駕しなくてはなりません。菊間会長が話された開発力も、ノウハウや知識が下支えるものだろうと思います。

国内旅行の底上げにも尽力を

——観光立国の推進に向け、今後の取り組みをどのようにお考えになりますか。

## 井手長官

日本はすでに貿易立国で完全に成功していますから、今さら貿易立国などということは誰も言いません。観光立国という言葉が喧伝されるのは、観光の面では、日本がまだ新興国だからです。しかし、幸いなことに、観光資源などの面では、非常に有望な新興国であり、頑張れば伸びていく可能性が大きい。十分な予算を確保するのが難しい状況です。で、単位当たりの効果を高めていく必要があります。そのために工夫を重ねなければなりません。国内旅行においては、東日本大震災後の観光復興支援策として東北観光博を開催し、国内観光のエンジンとして大きな役割を果たしていると思います。同時に、自治体だけでなく、地域の皆さんの熱意やスキルも非常に高まってきており、2013年は、いろいろな工夫をして熱心に取り組んでいる地域を応援する事業を推進したいと考えています。



菊間潤吾・JATA会長

菊間会長 インバウンドについては、井手長官が就任されてから、満足度ということを前面に打ち出しておられますが、日本に来て満足して帰っていただくのは、非常に重要なポイントだと思います。JATAとしても、ランドオペレーター業の品質保証制度をつくり、本来の意味での観光立国の実現とインバウンドの品質向上を図る方針です。こうした認証システムを構築することで、訪日旅行者に大きなメリットをもたらすと同時に、国内においても各地域の特色を活かした着地型商品開発による地域振興を促進する効果も期待できるのではないかと考えています。高品質で安心・安全な訪日旅行を通じて、デステイネーションとしての日本の評価も高まっていくはずで、低価格重視の訪日旅行と一線を画した高品質で満足度の高い商品の提供により、旅行需要の増加、さらには、リピーターの拡大にもつながっていくと思います。また、国内旅行についても、海外旅行と同じように、JATAの会員会社が規模の大小を問わず、各社の個性で色々な旅行商品をつくるようになればと考えています。昨年12月に実施した東北復興支援プロジェクト「行こうよー東北」でも、取って海外旅行しか扱っていない旅行会社にも参加してもらいましたが、国内旅行を取り扱う旅行会社が増えれば底上げにつながるはずなので、われわれとしても尽力していきたいと思っています。

# JATA初の試みに約1000人が集結 東北復興支援を胸に熱心な視察を行いました



早朝の東京上野駅で行われた結団式には約1000人が集結。さすがに社観です。

日本旅行業協会（JATA）は12月3日と4日の両日、会員企業の社員などを東北地方へ派遣する「東北復興支援1000人プロジェクト」を実施しました。

各県毎に4本ずつ設定されたコースをはじめ、各国大使らが参加した青森Eコースや会津若松市などの招聘によるコースなど、合計28コースに約1000人が参加し、今後の商品化に向けて熱心に視察を行いました。

12月3日の早朝、JR上野駅・新幹線地下3階コンコースで行わ



三村青森県知事自らの説明に一同みな感動

れた結団式で、JATAの菊間潤吾会長は「観光を通じて東北を元気にしようという使命のもとにプロジェクトを企画しました」と挨拶。「2日間という短い期間ですが、真剣に東北と向かい合い、プロの目を通じて現地の人々や風景から新しい発見をして欲しい」と呼びかけました。

## 三村申吾青森県知事が自らお出迎え

オーストリアやコロンビア、バングラデシュの各国大使をはじめ、アンゴラ、オーストラリア、ポーランド、マダガスカル、リトアニアなどの大使館員や各国の航空会社・観光局の関係者らが参加したコースでは、青森県の三村申吾知事が県庁の玄関先まで足を



お見送りいただいた三村知事とがっちり握手する菊間会長

運んで参加者らを出迎え、一人一人と握手して庁内へ先導。知事自らが写真パネルを用いて、片言の英語や身振り手振りを交え、ユーモラスに青森の四季の魅力を紹介しました。

知事自らの心のこもった案内に対し、JATAの菊間会長は、「外客誘致や国内旅行の活性化に向けた強い意志を感じさせてもらい、我々旅行業界も腰を据えてインとアウトのツーウェイツーリズムの活性化に取り組みたい。今回のプロジェクトを通じて青森の魅力のアピールし、少しでも東北観光の復興につながればと思います」と応じました。



加賀谷青森市副市長からもご挨拶をいただきました。



青森県観光関係者との交流会ではベルン・ハルト・ツインブルク駐日オーストリア共和国大使館特命全権大使のご挨拶も



県庁職員の皆様にも温かいお出迎えをいただきました

# 東北の皆様ありがとうございました

## 熱い期待を受け止め“復興支援”に努めてまいります

今回の東北復興支援プロジェクトでは、6県28コースに約1000人が分散して視察を行う形となり、各コースとも行く先々で地元の方々の熱烈歓迎を受けました。東北の観光復興に向けて旅行業界に大きな期待が寄せられていることを改めて思い知らされ、今回のプロジェクトを通じた商品化などにより、東北各地へ一人でも多くの旅行者を送り出すという使命感を参加者が等しく心に刻むことになりました。

〈東北の「おもてなしの心」に感動〉  
新幹線の到着駅をはじめ、ツアー参加者の向かった先々で横断幕が掲げられ、地域の皆さんの熱い思いは参加者の心を動かし、改めて、復興支援への覚悟を胸に刻み込みました。



〈「当地ゆるキャラもお出迎え」〉  
青森県の「いくべえ」、秋田県の「オモテナシ3兄弟・フカインダー/イヤスンダー/ヌクインダー」、岩手県の「わんこきよつだいこくくち」と「アマリン」、そして、来年の主役 福島県の「八重たんと」「ふくしまから はじめよう。キヒタン」に山形県の「じゅっきーくん」、郷土愛を体現するマスコットたちも、地域振興の担い手として、プロジェクトの参加者を暖かく迎えてくれました。



### メディアも着目 延べ約50媒体がJATAの活動を紹介

今回の東北復興支援プロジェクトは、多くのメディアからも注目され、新聞やテレビなどによる取材を通じて、JATAの活動が東北地方だけでなく全国的にも認知される形となりました。

実際に現地での視察が行われた12月3日と4日の両日に取材を行い、各媒体で記事や番組として報道したのは次の各社です。

◎TVメディア(6社7番組)  
TOKYO MX TV (東京) = MX NEWS / NHK青森放送局 = あっぶるワイド / 青森放送 = 東奥日報ニュース / 東日本放送 (宮城) = ニュース&スーパーJチャンネルみやぎ / 山形さくらんぼテレビ = SAYスーパーニュース / テレビユー山形 = Nスタやまがた



◎新聞メディア(11社12記事)  
北海道新聞、東奥日報(青森)、河北新報(宮城) = 12月3日夕刊 / 秋田魁新報、岩手日報、河北新報、福島民友、福島民報、四国新聞(香川)、南日本新聞(鹿児島) = 12月4日朝刊 / 朝日新聞(青森版) = 12月6日朝刊 地方版



◎新聞・TVニュース(WEB版)メディア(9社)  
産経新聞(=msn産経ニュース) / 共同通信社(共同ニュース) / 三陸経済新聞(陸前高田、碓石海岸) / 東海新報社 / 高知新聞 / 西日本新聞 / 佐賀新聞 / 日テレNEWS24 / 福島放送  
また、プロジェクトの実施に先行して、9月と11月の2回にわたり、一般メディアや業界紙誌、東北地方のメディアに特化する形などで、計画の考え方や概要など記者会見等を通じて発表し、10紙以上に記事が掲載されました。



メディアの取材を受ける  
菊間潤吾会長

多くの発見がもたらされた今回のプロジェクトを通じて、東北の観光的な価値を今までにない形の商品として世に問うことができ、継続的な復興支援につながっていくと考えています。

今回のプロジェクト実施に当たっては、現地の皆様をはじめ、関係各方面の多大な御協力と御努力をいただいております。改めて、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。同時に、年末の忙しい時期にも関わらず、JATA会員各社から多くの社員に参加していただき、心から感謝しております。各コースの参加者が現地の皆さんと直接ふれ合い、その熱い思いを受け止め、心を震わせながら帰ってきた様子を見て、プロジェクトを実施して本当に良かったと思っております。到着する駅ごとに掲げられた歓迎の横断幕やゆるキャラの登場、地元メディアによる同行取材などにも、現地の期待をひしひしと感じました。旅行業界による試みを心強く思っているに、現地側と旅行会社の熱い気持ち、理想的な関係を醸成しつつあり、必ず良い結果を生むと確信しています。

必ず良い結果を生むと確信

JATA 菊間潤吾会長

# 現地関係者との意見交換会や交流会で 相互理解を深めるよい機会となりました

今回のJATAによる「東北復興支援1000人プロジェクト」では、会員企業の社員らが参加した各県の視察コースで意見交換会や交流会が開催されました。JATAの吉川勝久副会長と田川博己副会長が参加した岩手県と宮城県のコースでは3日の夕方、岩手県沿岸広域振興局や大崎市、鳴子温泉郷観光協会など現地関係者の皆さんとの懇談を行っています。

岩手Cコースに参加した吉川副会長は、沿岸広域振興局宮古地域振興センターとの交流会で、「地元の関係機関の皆様のご協力により、今回のプロジェクトを実施でき、大変感謝しています」と語り、前例のない大規模な視察が実現できたことへの謝意を述べました。

また宮城Bコースに参加した田川副会長は大崎市で開かれた意見交換会で、「JATAとして、旅行業界挙げてレジャーマーケットを刺激しなければならぬ」と指摘。「震災復興という形で動いていた今年までの展開に続いて、今回のプロジェクトを通じ視察に参加した企画担当者が新しい魅力の発見に努め、今年度第4四半期や来年度に向けて積極的に商品づく

## 積極的にレジャーマーケットを刺激

「積極的にレジャーマーケットを刺激したい」と挨拶する田川博己副会長

深い魅力あるDESTINEーションであり、旅行会社が商品化などに取り組むことで多くの旅行者が訪れるようになることを確信しました」と期待を示しています。



岩手県岩手町うれいら通り商店街会長の説明を聞く吉川勝久副会長(右手前)と参加者



青森県弘前市での意見交換会(左)

岩手三陸・気仙地区の観光関係者との意見交換会(右)



「積極的にレジャーマーケットを刺激したい」と挨拶する田川博己副会長



今も小学校の校庭に商店街が並び福島県の浜風商店街では人々の温かい笑顔を迎えられました。



ドイツ政府観光局日本局長のブルーメンシュテングルベーターさん、ユキコ夫妻も青森県との交流会を楽しんでいました。オーストラリア公使ポール・ロス氏の夫人エリザベスさんは津軽三味線にチャレンジ



岩手県花巻温泉での交流会では、岩手の伝統芸能、鹿踊りも披露されました。

くといったご縁も続いている」と震災からの経緯を振り返り、「米どころ、水どころの大崎市ということで、お酒や酒蔵を紹介したが、沢山ある宝の一部であり、旅行業界の皆さんには、ぜひ、多くの旅行者を送客していただきたい」と要請しました。

また、鳴子温泉郷観光協会の菊池武信会長は、「風評も収まってくると思うが、われわれ自身さらに努力しなければならない」と強調。「30年前に整備した奥の細道の散策道の再整備を行い、4カ国語による多言語表示も実現した。源義経と松尾芭蕉の通った地でもある鳴子温泉の魅力を通じていくので、皆様の協力をお願いしたい」と語りました。

### 東北ロゴのダウンロードは下記へ

各社の東北復興支援に関わる企画商品を表すロゴとして、各社の旅行商品のパンフレット等に記載していくログです。下記URLからダウンロードし、ご活用ください。

[http://www.jata-net.or.jp/about/release/2012/121120\\_toklogoinfor.html](http://www.jata-net.or.jp/about/release/2012/121120_toklogoinfor.html)



### 新春トップ対談



「満足度の向上」が観光立国のキーワード  
2013年を旅行業における「価値創造元年」に  
井手憲文観光庁長官×菊間潤吾JATA会長……………1



### フォトレポート

JATA初の試みに約1000人が集結  
東北の皆様ありがとうございました……………3~5, 21~24

委員長・支部長が語る新年の抱負と意気込み……………7, 12

### 委員会報告

●ASEANとの友好協力40周年で記念事業  
日本人渡航者数の拡大目指し施策展開……………11  
●「経営フォーラム2013」開催のお知らせ……………11

●支部活動報告……………13

●読み物&マーケティング  
ハイこちら消費者相談室 苦情事例に学ぶ④ 今回のテーマ:旅程保証……………9  
法務の窓口 第4回「旅程管理」とは……………10  
添乗員のための旅行医学 VOL.65 妊婦さんの海外旅行……………14  
連載・マーケットデータ深読み 2013年の旅行マーケット見通し……………15

●要人往来……………16

●Special Interview  
“Boosting Satisfaction” is the Keyword for a Tourism Nation Country  
2013 is the Start of “Value Creation” in the Travel Industry……………17

●Special Report  
1,000 Associates Enthusiastically Inspect 28 Courses in 6 Tohoku Prefectures  
Aomori Prefectural Governor Met and Spoke to Participants in Person……………18  
●Travel Industry Monthly Report(今月の旅行業界)  
Main Topics  
Outbound Japanese Travelers Declined 3.9% in November  
-Outbound Travelers to Set New Annual Record in the 18-Million Range……………19

●素材研究  
(海外)ダーズリン(インド)ヒマラヤ山麓に広がる紅茶の里……………25  
(国内)慈恩寺(山形県寒河江市)国による史跡指定で地域の観光拠点に……………22

●事務局だより……………20

### 今月の表紙 河口湖富士桜

絵・大槻 綾子(おおつき あやこ)  
跡見学園卒業後、誠和染色教室で縮染を学び、以降50年日本・世界各地を巡り、その風景を作品にする。数多くの個展を開催。旅行記や画集を発刊している。

今号では、「行こうよ!東北」プロジェクトの様子をP3~6、P21~24の計7ページにわたって写真構成で特集しています。東北の皆様の「心のこもったおもてなし」があふれる写真の数々、ぜひご注目ください。



東北ロゴのダウンロードは下記へ  
各社の東北復興支援に関わる企画商品を表すロゴとして、各社の旅行商品のパンフレット等に記載していくロゴです。ダウンロードは下記にて。  
[http://www.jata-net.or.jp/about/release/2012/121120\\_tokogoinfor.html](http://www.jata-net.or.jp/about/release/2012/121120_tokogoinfor.html)

発行 一般社団法人 日本旅行業協会  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-3  
全日通霞が関ビル3階  
TEL:03-3592-1271(代表) TEL:03-3592-1244(広報)  
FAX:03-3592-1268  
<http://www.jata-net.or.jp/>

旅行業基幹業務支援システム

**symphony Atwo** は、  
シンフォニー アトゥー

営業から経理まで、  
【完全連動】します！

予約・手配

顧客管理

経理・経営

あらゆる業務の情報を、  
リアルタイム  
に一元管理。

WE CAN

株式会社 ウィ・キャン 本社 : 東京都港区元赤坂1-1-8 赤坂Jビル6F /03-3423-2161  
<http://www.we-can.co.jp/> 大阪支社 : 大阪市淀川区西中島5-11-10 第三中島ビル4F/06-6390-3321

# 謹賀新年

本年もよろしくお願い申し上げます

## 委員長が語る2013年の抱負と意気込み



巻頭の井手憲文観光庁長官との新春対談で菊間潤吾会長が述べられているように、2013年は旅行業における「価値創造元年」と位置付けられます。その舵取り役を果たす委員長の皆様に新年の抱負や意気込みを語っていただきました。  
(順不同)

### 旅行業の価値創造に向けた実行の年に！

政策検討特別委員会

田川博己 委員長

当特別委員会は、昨年6月に将来へ向けたJATA事業のあり方の検討を目的として設置。昨年中に現状認識と課題の検証を経て、課題解決に向けて優先順位、方法等を整理し、各委員会アクションプランの検討、策定を終えていただきました。中にはすでに実行に移されたものもあり、かつてないスピードで進んでいます。今年も、本格的に実現に向けた実行の年です。



短期の課題はもちろん、国の政策提言にかかわるような長期の課題についても、運動論としてテーマを設け、一歩も二歩も実現に向けて前に進むこととしています。旅行会社による新たな価値創造と経営基盤強化に向け、各委員会とともに

### 不断の需要喚起策が重要

海外旅行推進委員会

生井一郎 委員長

昨年を振り返ると海外旅行はおおむね好調な年でした。9月以降の領土問題



による影響で中国・韓国方面への渡航激減があったものの、記録的な夏期渡航者数増加などで通年では2000年以來の1800万人超となりました。

2013年がスタートしました。市場環境変化は著しく、業界全体で不断の需要喚起策が必要です。今年JATAでは、3つの海外旅行推進策を推進してまいります。アメリカ方面へのBRAND USA設立を期に「日本・アメリカ観光交流年」事業による推進、ヨーロッパ観光促進協議会(略

称：TEAM EUROPE)が中心となり推し進める欧州方面への渡航拡大、そして日・アセアン友好協力40周年を機会とする交流推進です。

### 新制度も導入、良質な旅行の提供に努力

訪日旅行推進委員会

丸尾和明 委員長

観光立国推進の重要な柱である「訪日外国人観光客」の拡大に資する施策を進めることにより、会員各社の営業拡大のための基盤整備をはかってまいります。「量的拡大」のみならず「質的向上」がインバウンド推進における国策的課題となってきました。従来からの「受け入れ環境の整備」を推進するとともに、「ランドオペレーター認証制度」を新たに導入することにより、良質な旅行の提供に努めてまいります。新規需要の創出については、(昨今の国際情勢の動向に鑑みて)「日・ASEAN交流40周年記念事業」等の新しいマーケットに関する取り組みを積極的に推進していきます。



### 国内宿泊旅行拡大の具体策を実施

国内旅行推進委員会

吉川勝久 委員長

昨年12月の東北復興支援プロジェクト「行くよ！東北」にご協力をいただきました。



国内旅行推進委員会としては、東北の復興支援はもとより、国内旅行活性化の最大の課題である国内宿泊旅行の拡大に向けて、昨年3月策定した「新・国内宿泊旅行拡大推進行動計画」に基づき、「もう一泊、もう一度」キャンペーンを継続する等、具体的施策を実施し、会員会社の国内旅行の更なる拡大を目指し、平成25年度の事業計画に取組むこととします。

### 活力ある産業としてのルールづくりに取り組む

法制委員会

原 優二 委員長

ネット社会の進展によって、直売の拡大、ゼロコミッション、LCCやお



# 謹賀新年

## 委員長が語る2013年の抱負と意気込み

オンライン旅行会社の登場など、旅行業界を取り巻く環境は激変しています。法制委員会では「旅行業法制度研究部会」を、昨年9月に発足させて、5年後10年後も旅行業が活力ある産業であるためのルールはどうあるべきかの検討に入りました。会員の皆様から何れご意見を賜りたいと考えておりますので、何卒、ご協力いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

### 厳格な認証審査など通じ 業界の信頼確保に努力

弁済業務委員会

田辺 豊 委員長



昨年は弁済の認証の実態と課題の把握に取り組みました。本年は、引き続き、厳格な認証審査を行なうとともに、弁済制度やボンド保証制度についてもしっかりと取り組んでまいります。また、旅行業界の信頼確保と消費者保護の強化のため企画・広報グループとさらに連携を図りながら、効果的な消費者啓蒙についても検討していく所存でございますのでよろしくお願いいたします。

### 消費者利便の向上と会員 の業務改善に取り組み

業務改善委員会

神應 昭 委員長



本年度の抱負としては消費者の皆様方への利便の向上、啓蒙を図るため、ホームページの内容のリニューアル化を指すとともに、消費者相談員研修のための説明会の開催、一方、会員の方々は「お客様からの声を活かす」の冊子作成とともに、全国各地で実施させていただいている「苦情対応セミナー」をより業務に役立てていただけるよう充実させていきたいと考えております。

### 業界の社会的価値向 上に資する広報を!

広報委員会

高橋敦司 委員長



昨年、協会機関誌「じゃたこみ」の全面刷新と月刊化を行い、業界内外への情報発信体制を拡充しました。今年度は、訪日旅行品質認証制度の導入や「行こうよ!東北」など観

光による地域活性化への取り組み、政策検討特別委員会による諸課題解決に向けた提言など、業界の在り方を問い、変革に向けた活動が活発化してまいります。広報委員会では、多面的な広報展開による業界に対する理解向上と、業界の存在意義、社会的価値の向上へとまい進したいと考えております。

### 役立つ経営・マーケティング 情報の提供を

旅行業経営委員会

石川邦大 委員長



東日本大震災から2年、社会情勢はめまぐるしく変化し、グローバル化する社会の中で消費者の価値観は多様化がますます進みつつあります。旅行業経営委員会では、「経営フォーラム」などを通じて、旅行業経営・マーケティング活動に役立つ情報の提供、人材の育成やツーリズム関連の税制改正等、制度改善、整備に向けた働きかけなど、取り組むべきさまざまな課題の整理と、その解決のためのヒントを希求してまいります。

### 旅行業ならではの 「CSR」を進める

社会貢献委員会

平林 朗 委員長



社会貢献委員会としましては、環境対策やバリアフリー旅行などのテーマを中心に旅行業としてのCSRへの取り組みを進めております。旅行業の社会的地位の向上は、業界にとつての長年にわたる課題でもあります。今年は今まで以上に社会貢献活動の充実を通じて各社がCSRに取り組む際の指標となるよう、努めてまいります。

### 満足度の高い研修業 務をさらに検討

研修・試験委員会

東 良和 委員長



昨年一年間の研修業務全般を顧みますと、研修業務を実施するにあたり、会員皆様方が研修を受講しやすい環境づくりに取り組み、会員の皆様方には理解いただけた年であったと感じております。

2013年は、会員の皆様が満足していただける環境づくりである開催地、開催数を充実させるとともに、会員が求める新たな研修の検討などに取組んでまいります。

### 旅博をさらに世界へ アピール

JATA旅博推進会議

古木康太郎 委員長



2012年の旅博は協賛各社、会員各社、出展者皆様のご協力をいただき、来場者数、出展小間数も過去最高となりました。本年は昨年同様、国際フォーラム・国際商談会・旅博展示・顕彰事業の4本柱での開催を決定しており、一層の充実を図っていく所存です。2013年は「旅で示そう 日本」の元気をテーマとしてJATAの基本事業の一つである旅博をさらに世界へアピールし、昨年以上の内容での開催を目指し、JATA旅博委員、JATA職員が「一丸」なって準備を進めてまいります。



## 苦情事例に学ぶ④

## 今回のテーマ…旅程保証

本年も宜しくお願

いいたします。10月号より掲載の今コーナーですが、日頃の業務の参考になればと考え、引き続き申し出が多い案件、できる限り旬な案件の提供を心がけていきます。会員の皆様の参考になればと願っております。

今回は、年末年始、これからだと春休みやゴールデンウィークのピーク時にあり得る案件ともいえる、宿泊機関から過剰予約を打診されたときの対応について、『初秋のかなり早めに予約して、大変楽しみにしていたにもかかわらず、年末出発の1カ月前になって、指定していたホテルが確保できず、他のホテルに変更して欲しいと、旅行会社から言われた。変更に同意していただけるのなら返金するというが、これに従うしかないのか』という申し出で、いわゆる宿泊機関におけるオーバーブッキングが発生した場合に、お客様にどう説明するのかという件について検証してみました。

## 申し出内容はこうです

9月になってすぐに、ある営業所で年末出発のハワイツアーを申し込んだ。かねてからどうしても宿



泊したい！と家族に懇願されていたホテルを利用するツアーに予約した。

後日申込金を支払い、残金は出発の40日前くらいに振り込んだが、その数日後、旅行会社から「ハワイツアーで承っておりますが、ご指定のホテルが確保できず、他のホテルに変更していただきたく、つきましては皆様で60,000円(15,000円×4泊分)を返金させていただきます」と今頃になって言われてしまった。

その事実をつきつけられた家族は、楽しみにしていた一大イベントにけちをつけられた状態で意気消沈してしまい、これから年末まで暗い状況となりつつある。旅行会社には予約したとおりのホテルを確保するのが当たり前だろう！と再度、当初契約のままになるように強く要望してみたが、あいにく希望は叶えられないと突き放されてしまっている状態である。この差額を返金してもらって旅行会社に従うしかないのでしょうか。

## 解決に向けての指針

この申し出が当方に来た段階では、責任の所在が明らかではありませんでした。つまり旅行会社の手配上の問題で確保ができないのか？宿泊機関側における過剰予約、いわゆるオーバーブッキングで代替りのホテルを提供しているのか？であります。

大前提は契約どおりの宿泊機関の提供ではありませんが、もし今件が前者の旅行会社における手配上の問題であれば、損害賠償請求をするかどうかとなり、反対に後者の宿泊機関側の問題で部屋の不足ということであれば、解除権を行使されるか、差額の支払い対象及

び旅程保証の発生による変更補償金の対象とされ、その合計金を支払うこととなります。

それを説明して再度旅行会社に確認したところ、今件は後者のいわゆるオーバーブッキングゆえにホテル側の問題ということが明らかになり、旅行代金は代案のホテル利用の場合と同料金で差額はなく、変更補償金が15,000円×4泊分(旅行代金375,000円×1%×4名分×4泊分)皆様で60,000円ということでした。

## まずは責任の所在を明確に

このようなケースでは、まずは責任の所在を明らかにして消費者に伝えないと、対応が後手として二次クレームに発展しかねません。中にはその交渉争いの間に他のツアーを検討し、希望のホテルに宿泊できたはずだ！として機会損失の補償を訴え出る方もいらっしゃいます。

また本当に宿泊機関の問題なのかと疑念を抱かれる方もいらっしゃると思いますので、ホテルからの書面を取り寄せるなど、その証を準備しておきましょう。あとは条件書にも明記されているはずですが、解除権の説明も必要となってきます。

そうはいってもなかなか理解されない面があるかと思いますが、消費者の方々には、支払い内容の理由を説明しつつ、以上の項目がご提示済みの条件書のどの部分が適用となるか(免責事項であるが旅程保証から変更補償金に該当する等)の取引条件の説明をしながら対応してください。



## 第4回 「旅程管理」とは

法務・コンプライアンス室  
(監修 弁護士 三浦雅生)

企画旅行の実施の際に旅行者に求められる「旅程管理」。今回は「旅程管理」という用語について述べてみたいと思います。

### 具体的な「旅程管理のための措置」とは？

「旅程管理」や「旅程管理主任者」という言葉の響きから、「旅程管理」とは、「ツアーのお客様の旅行が今どんな具合で進んでいるのかを管理する」という意味合いで捉えている方も多いかと思いますが、これは必ずしも正しいとは言えません。そこで、法や約款が言う「旅程管理」とは具体的にどんなことなのかを正しく確認しましょう。

- (1) 旅行開始前に必要な手配の完成
- (2) 航空機の搭乗手続きやホテル等の手配に係る再確認等により、旅行者が旅行サービスの提供を確実に受けることができるための手続きや措置
- (3) 旅行サービスの内容を変更せざるを得ない事態

が発生した際の代替手配等  
(4) 円滑な旅程の実施のためにお客様がグループとして行動する際の各種指示

なお、国内旅行の場合は、一定の要件を満たせば(2)と(3)は行わなくてもよいことになっています。  
(旅行業法第12条の10及旅行業法施行規則(以下「規則」という)第32条。)

一方、旅行者とお客様との間の約束事である標準旅行業約款(募集型企画旅行契約の部(以下「募集型」という)第3条、同受注型企画旅行契約の部(以下「受注型」という)第3条)でも「旅行者は、旅行者が：略：旅行サービスの提供を受けることができるように、手配し、旅程を管理することを引き受けます。」と定め、企画旅行契約の内容そのものとして「旅程管理」を位置づけています。

さて、旅行者は、(1)の手配の完成や(2)の措置の後に、悪天候による交通機関の乱れ等により日程や旅行サービスの内容を変更せざるを得ないようなときは(3)の措置を行うこととなりますが、(3)の代替手配については、当初の日程や旅行サービスと同等となるよう変更を最小限にとどめるように努力しなければなりません(募集型第23条第1号、第2号及び受注型第24条1号、第2号)。

### 「旅程管理のための措置」は誰が行うのか？

「旅程管理のための措置」は「必ずしも添乗員が全て行う必要はなく、旅行地の旅行者(オペレーター

等)へ委託すること、常時連絡可能な窓口を設けること等その他の方法によって必要な措置を講ずることが可能であれば、これらの方法によって支障はない。」と定められています(旅行業法施行要領第13、1)。つまり、旅行者は、この措置をオペレーター等に任せることはできるものの旅行者自身の責任において行わねばなりません。

### 旅程管理のための措置は「旅行の安全かつ円滑な実施」を図るため

「旅程管理のための措置」は、常に旅行の安全かつ円滑な実施を図るために行うものです。つまり、(3)の代替手配措置や(4)の旅行者への指示を行う際には、旅行の安全かつ円滑な実施ができるのかどうかを考えて、その時々状況に応じて適切に行わねばなりません。これについて、約款では「当社は、旅行者の安全かつ円滑な旅行の実施を確保することに努力し、旅行者に対し次に掲げる業務を行います。」(募集型第23条及び受注型第24条)とあり、また旅行業法でも「旅行者等は、(略)：旅行業務取扱管理者を選任して：(略)：旅行の安全・を確保するために：「旅程管理のための措置」について管理・監督」させなければならない(法第11条の2及び規則第10条第7号)と定められていることから、このことが、読み取れます。

最後に、旅行者はこうした「旅程管理業務」に関する理解を確認し、これをしっかりと行うことが、お客様の旅の満足度や企画旅行への安心感・信頼感を高めることになるのです。(服部)

お客様の信頼確保にコンプライアンスは必須。  
旅行取引に関わる基本的な法務知識のうち、  
誤解しやすいテーマを取り上げて分かりやすい文章で解説します。



# ASEANとの友好協力40周年で記念事業 日本人渡航者数の拡大目指し施策展開

日本旅行業協会（JATA）は今年1月から10月中旬まで、「2013年日・ASEAN友好協力40周年記念事業」を実施します。

外務省の認定事業として、同省・観光庁・日本ASEANセンターの後援を受ける同事業は、40周年を機にASEAN各国の日本市場での旅行デステイネーションとしての認知向上や魅力の訴求を図り、ASEAN地域への日本人渡航者数拡大を目指すものです。

## シニア層と20～40代女性を重点顧客に

2011年に約365万人だった日本人渡航者数を13年と14年には400万人以上を達成するため、プロモーション&トレードの枠組みを構築した上で、65歳以上のシニア層と20～40代の女性層を重点顧客セグメントとして、4～6月と10～12月の強化シーズンを中心に施策を展開します。

Web媒体による市場へのASEAN各国の魅力訴求を図るフェーズを経て、フェーズ2ではフォトコンテストによるASEANへの関心度向上（JATA旅博会場でのフォト作品展示と来場者

の投票による優秀作品決定）を図る一方、ASEAN地域への需要創造を目的とするツアーコンテストも実施する予定です。

また、1月から10月までの期間中は、Yahoo・フォートラベルからのランディングページを常設すると同時に、JATA会員のパンフレットやホームページにロゴを掲載してASEANの訴求を図ります。

## 「経営フォーラム2013」開催のお知らせ

業界が抱える諸課題について本音で議論できる場として、会員の皆様よりご支持をいただいております「JATA経営フォーラム」は、本年度で21回目を迎えます。東日本大震災から2年、社会情勢はめまぐるしく変化し、消費者の価値観の多様化が益々進む中、優先的に取り組むべき課題を整理し、会員会社の経営に寄与するフォーラムとするために開催します。

フォーラムの概要は、次の通りです。ふっつてご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

総合テーマ：「グローバル視点で強くなる！」～新たな価値創造に向けて

開催日時：2013年2月26日（火）午後一時より  
場所：ロイヤルパークホテル（東京都、日本橋蛸蛸町）

### ◎特別講演

「観光は物見遊山か」

観光業界を取り巻く現状や課題に対し、JR誕生の契機となった国鉄改革の事例や自身の経営感を踏まえ、観光業界自身のイノベーションと、ツーウェイツーリズムの促進、人材育成、地域や他の産業との連携を通じた観光振興の提言を行う。

東日本旅客鉄道株式会社 相談役  
一般社団法人日本経済団体連合会  
副会長／観光委員長  
大塚陸毅氏



大塚陸毅氏

### ◎旅行業経営分析

公益財団法人日本交通公社 観光文化事業部  
主任研究員 黒須宏志氏

### ◎分科会（パネルディスカッション）

「旅行業のグローバル化に伴う法規制のあり方について」

モデレーター：株式会社風の旅行社  
代表取締役社長・原優二氏  
「東南アジアからのインバウンド誘客を図るには」  
モデレーター：トップツアー株式会社  
社 国際旅行事業部インバウンド事

業推進部長・足立成雄氏  
「LCC元年を経て旅行会社共存共栄の道は見えたか」  
モデレーター：株式会社航空新聞社  
取締役編集長・石原義郎氏

「女性・外国人の能力を活かせ！～激変するグローバル時代を勝ち抜く多様性の活かし方」  
モデレーター：株式会社ジェイティービー  
ピー ダイバーシティ推進室長・五十嵐潤子氏

※各分科会のパネリストについては、決まり次第、ご案内します。

### 「スケジュール」

12：30～ 受付  
13：00～13：20 主催者挨拶・来賓挨拶  
13：20～14：20 特別講演  
14：30～16：00 旅行業経営分析  
16：10～18：00 テーマ別分科会  
（4分科会同時開催）  
18：10～19：30 意見交換会

### 【参加費】

正会員 8,500円  
協力会員 10,500円  
国内賛助会員 12,500円  
会員外 15,500円

《女性特別料金》（管理職を除く正会員のみ）  
分科会（16：10～18：00）のみ  
2,000円

分科会及び意見交換会（16：10～19：30）  
5,000円  
※東日本大震災の復興活動義援金500円を含みます

※プログラム・時間等については変更する場合があります。

# 支部長新春メッセージ

## あけましておめでとうございます

### 本年も支部活動と地域活性化に貢献してまいります

あけましておめでとうございます。日本旅行業協会（JATA）各支部長からの新春メッセージを紹介いたします。今年もよろしくお願いいたします。



#### 北海道支部

落合 周次 支部長

昨年、日本版LCCの本格就航、バンコク線・ホノルル線の新規就航など、新千歳空港と国内や海外の都市が繋がったことに伴い、イン・アウト双方向重視の旅行需要を促進する行政や関係団体の取り組みが実施されました。今年、新規路線の維持拡大をはじめ、旅行業界団体として存在感を示すべく、会員の発展に向けた取り組みを推進したいと考えます。



#### 東北支部

堀 好治 支部長

昨年12月のJATA東北復興支援プロジェクト「行こうよ！東北」の実施により、東北全県の受入側と旅行会社との結束がさら



に強くなりました。今年はJATAとしての貢献度を確実にするために、次のステージへもう一歩進めてまいりたいと考えております。引き続き東北へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

#### 中部支部

高西 善一郎 支部長

今年も消費者向け旅行需要喚起イベントや人材育成・研修など、会員企業の業務に資する事業を一層充実し、中部地域を代表する旅行業団体として、需要喚起や人材育成を関係団体・機関とともに展開していきたいと考えています。特に、当支部地区委員会にて



#### 関東支部

池畑 孝治 支部長

昨年、新たな観光立国推進基本計画が定められ、官民による意見交換を通じて旅行業に関する課題の情報共有、訪日旅行担当の若手・実務者等の交流、広域観光・地域活性化の理解等を図りました。今年も、現場の意見を活かし、事業パートナーとの公正で良好な関係構築により、お客様の信頼にこたえ得る現場づくり、コンプライアンスの推進、風評被害払拭等に努め、官公庁との連携などにより課題解決、活性化を図りたいと考えております。



#### 関西支部

高橋 広行 支部長

昨年、関西国際空港にLCC専用の第2ターミナルが開業。今年には空港新時代に相応しい関西でのVW事業として、関空旅博へ



の運営協力や従業員向けの情報提供・スキルアップのセミナーを行うほか、国内旅行や訪日旅行の振興、消費者相談についても社員教育や外部関係者を交えた検討会・セミナーなどの消費者啓蒙やサポートづくりなどを行い、新しい旅は関西からの心意気で支部活動の活性化を図りたいと考えております。

#### 中四国支部

岩穴口 一夫 支部長

昨年は大河ドラマ「平清盛」、岩国錦帯橋空港開港、アジア路線増便等を通じ、観光振興におけるJATAへの期待を、強く感じる1年でした。各自治体とも連携し、広島空旅（1月）の実施や、愛媛松山産業まつり（11月）、愛媛地区委員会への参画。今年も、瀬戸内海や世界遺産など、観光資源を多数持つ支部として各地区委員会と連携を強化、観光振興による交流を促進し、地域活性化に貢献してまいります。



#### 沖縄支部

東 良和 支部長

オープンスカイとLCCの時代が到来し、沖縄では昨年、日本発のLCC専用ターミナルの完成と新国際線旅客ターミナルの建設着工など、インフラ整備が着々と進んでおります。今後は那覇空港第2滑走路の増設も予定されており、将来は地理的な優位性と人的交流を活かしたアジアとの連携拡大、クルーズ船の発着増などを通じ本土とアジアをつなぐ玄関口として、沖縄の持つ潜在力を日本全体の観光需要を喚起する役割を果たせればと考えております。



#### 九州支部

野口 和義 支部長

昨年は7月の九州北部豪雨によ

り、福岡・大分・熊本各県の観光地が甚大な被害を受けました。九州の魅力である美しい自然と豊かな食文化は、一方で観光地として災害や疫病などの影響を受けやすい面もあり、業界の社会的役割や責任を再認識しました。今年も、会員会社や行政・観光関係諸団体、関係業界のご協力・ご支援のもと、会員の皆様とともに事業を推進してまいりたいと考えております。



●支部活動報告

北海道支部

●12月5日 幹事会を開催。各委員会の上期活動報告、JATA旅博・国際フォーラムの視察報告などを行いました。

東北支部

●12月6日 幹事会を開催。支部活動報告を行うとともに、JATA東北復興支援プロジェクト「行こうよ！東北」の実施報告、新春賀詞交換会の運営などについて協議しました。

関東支部

●9月21日 関東支部セミナー「広域観光、地域活性化セミナー・勉強会」を開催。広域観光、地域活性化などのため、国、自治体、旅行会社は何をしなければならぬのか、旅行会社、業界の目指すビジョンなどについて、取り組み事例の説明および意見交換を実施しました。

●11月27日 第5回国内旅行委員会開催。昨年10月にリニューアルオープンしたNHKスタジオパーク視察と(財)NHKサービスセンター副館長、NHK視聴者事務局の皆様と、NHK、渋谷地区への顧客誘致について意見交換を実施。

●11月28日 第4回総務委員会

●11月29日 第4回幹事会開催。各委員より活動報告

●12月3日 第5回インバウンド委員会開催。JATA東北復興支援プロジェクト「行こうよ！東北」の宮城Dコースに参加し、松島、名取閉上(ゆりあげ)地区を視察

●12月3日 茨城県地区委員会開催。震災後の風評被害などについて、大洗地区を視察し、現地観光関係者との意見交換を行いました。

●12月4日 長野県地区委員会

●12月6日 第5回海外旅行委員会開催

●12月12日 群馬県地区委員会開催。県内の観光の現況について意見交換を行いました。

中部支部

●12月5日 静岡県地区委員会(苦情対応セミナー)開催

●12月12～16日 海外幹事会をネパールにて実施

関西支部

●12月3日～5日 関西支部管内会員より募集した10人が、JATA東北復興支援プロジェクト「行こうよ！東北」の福島県招聘コースに参加。福島県内各地を視察しました。

中四国支部

●11月19日 イベント・広報委員会開催。

2013年1月13日・14日に開催予定の広島空旅について打合せを実施しました。

●11月24日～25日 愛媛地区委員会委員の会員を中心に「えひめまつりやま産業まつり」に参加し、PR活動を行いました。好天にも恵まれ、多くの来場者、JATA、旅行をアピールしました。

●12月10日 岡山で苦情対応セミナーを実施

●12月11日 山口で苦情対応セミナーを実施

九州支部

●11月6日 国際旅行委員会開催。九州運輸局と意見交換会を実施

●11月7日 博多座研修を実施。管内各地会員より20人が参加

●11月13日 北九州で苦情対応セミナーを実施(15人参加)

●11月15日 長崎で苦情対応セミナーを実施(15人参加)

●12月5日 実務委員会を開催

●12月12日 総務委員会を開催

●12月12日 福岡地区委員会を開催

●12月13日 幹事会を開催

沖縄支部

●12月21日 国内旅行委員会を開催

『たびフォトサーチ』5つの特徴

- 1 汎用システムなので開発費が要らず低コストで利用が可能
- 2 常に新鮮な画像情報を提供可能に
- 3 著作権管理にも万全なセキュリティを確保
- 4 チラシ、パンフレットや旅行会社様向け販促資料等もPDFでUP可能
- 5 ダウンロード履歴が保存されており、月別・利用者別での検索も可能

画像から施設・地域情報まで、旅の素材マルチデータバンク

たびフォトサーチ  
http://www.tabiphoto.jp

(株)JMC JTBフォト事業部 たびフォトサーチ事務局 担当:中島・横山・魚見  
TEL: 03-5358-1255 FAX: 03-5351-0091  
E-mail: tabiphoto@jtb-photo.jp

株式会社 JMC



感動のそばに、いつも。

『たびフォトサーチ』が、  
宿泊施設様、観光協会様等の  
「経費削減」「営業拡大」をお手伝い。

『たびフォトサーチ』は写真の貸出・管理を効率化し  
お客様の営業拡大につなげるフォトライブラリーです。

基本料金  
年間  
30,000円(税別)  
安心低価格



# 妊婦さんの海外旅行

妊娠中の海外旅行は、避けた方が無難ではあるものの、いくつかの点に気を付ければ楽しむことができます。旅行先選び、準備、現地での注意事項など、妊婦さんが安心して旅行するためにはどうしたらいいかを、山本ウィメンズクリニックの山本悦子先生に伺いました。

## 〈妊娠中の海外旅行〉

持病のある人、流早産・妊娠高血圧・妊娠糖尿病の既往者、貧血症、多胎妊娠、若年・高齢初産は注意が必要です。リスクのない妊婦さんで、胎児の成長も順調であれば、18〜24週頃が安全な時期とされています。まずは産科主治医に、確認してください。

## 〈妊婦さんの旅先選び〉

時差ぼけの薬は良くないので、時差の少ない旅行先を選び、十分な睡眠・休憩のとれるゆとりある計画をたてましょう。お腹が張らないように、1カ所にのんびり滞在する旅行がおすすです。

飛行時間は、5時間以内の場所がいいでしょう。

高山病の危険がある高地、スキューバ、マリリアなど感染症が蔓延している地域への旅行は避けましょう。

## 〈感染症に注意〉

妊娠中は感染症が重症化しやすいため、十分に加熱された食物をとり生水、フルーツ、サラダ、飲み物の水、渡航先によっては洗面の水にも注意してください。

## 〈旅行前の準備〉

産科主治医に妊娠中内服可能な子宮収縮抑制剤や抗生剤、解熱鎮痛剤などの準備について相談するとよいでしょう。渡航時には妊娠週数のわかるような記録（母子手帳、エコー写真、薬・予防接種等の医療記録など）を持参しましょう。

また渡航先での発熱、不正出血、腹痛、破水、高血圧（頭痛、視野異常）など万が一に備え、病院を調べておくことベストです。海外

旅行保険の妊娠時の補償内容について妊娠週数による取り決めなどで補償されないケースも多いため、確認しておきましょう。

## 〈機内での過ごし方〉

妊娠中は血液凝固因子や静脈の拡張度の変化により、静脈血栓症いわゆる「エコノミー症候群」のリスクが6倍といわれています。機内では湿度が低く気圧が高いことから水分不足に陥りがちなことも助長の要因です。

したがって飛行時間は短時間が安全で、5時間以内を目安としてください。循環を促すために、こまめに水分摂取し、機内が安全であれば30分ごとに歩いたり、簡単なストレッチや下肢の運動をしましょう。あらかじめ通路側の席をリクエストして、乗務員に妊娠中であることを告げておくことよいでしょう。

また消化管ガスの膨張で腹部の膨満感が不快になりやすいため、機内ではガスのお出にくいヘルシーな軽食やミネラルウォーターを選びましょう。

シートベルトは骨盤の下、お腹を圧迫しない位置で常に着用してください。

## 〈妊婦と予防接種〉

渡航先によって、予防接種を必要とする疾患があります。一般的に、

①妊娠中は麻疹、風疹、水痘、おたふく、黄熱、経口腸チフスなどの生ワクチンは接種してはいけません。あらかじめ、麻疹・風疹・おたふくなどは血液検査で免疫があるかどうかの確認はできますので調べておくのもよいでしょう。

②不活化ワクチンは一般的には問題ないと考えられているものの、日本では原則妊娠前に受けておくことが望ましいとされています。医師と相談してください。

## トラベルには、トラブルの備えを

東京海上日動のネットワークであなたの旅をバックアップ。  
海外での安心のパートナーには、  
ぜひ東京海上日動をご指名ください。

### 海外旅行保険

東京海上日動火災保険株式会社

東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050

☎0120-868-100 午前9時～午後8時(平日、土日祝とも) <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>



東京海 ヨー





# 2013年の旅行マーケット見通し

我が国の旅行マーケット（国内・海外）は90年代後半以降、なごらく停滞した状況が続いてきましたが、2010年前後を境に、基調となるトレンドに変化が出てきたように見受けられます。2013年の旅行者数の見通しとともに、この変化についてご紹介します。

## 国内、海外、訪日旅行ともに増加を予測

今回は2013年、及びこの先数年の旅行マーケットの見通しについて書きたいと思えます。

2012年12月上旬時点におけるマーケット動向、及び景況見通し等に基づき筆者が予測した2013年の旅行者数は、国内の宿泊を伴う観光旅行（以下、国内旅行）については微増、海外旅行は1900万人（2012年を1850万人として2・7%増）、及びインバウンドは900万人（2012年を830万人として8・4%増）となっており、図1はこれらの数値を、2003年を100とする指数で示したものです（2013年の予測値はいずれも2012年12月12日に（公財）日本交通公社の旅行動向シンポジウムで筆者が発表したもの）。この図から海外旅行者数は90年代後半から続いてきた頭打ちの状

況から、2012年に頭ひとつ、抜け出した形になっていることがわかります。

また国内旅行についても10年以上にわたって続いてきた減少トレンドが2010年を過ぎたあたりで下げ止まった形です。国内、海外とも、直近数年間のこうした変化は実際にはいくつかの要因が重なりあった結果として出てきたものですが、そうしたディテールを一旦忘れて、長いタイムスパンでシンプルに数字の動きを読み直してみても、将来予測では大事なことです。

## 将来需要の基調トレンドはやや上昇傾向

実はこのような観点から、筆者は、2010年あたりを境として、国内旅行と海外旅行をトータルでみた日本人の旅行マーケットにおける基調トレンドが変化し、可能性があると考えています。旅行需要は景気の浮き沈みや為替相場といった外部環境の短期的な変化に影響さ

れると同時に、もつと長いスパンでゆくりと変化するファクター、例えば若者が多いかシニアが多いかといった人口構造、あるいは国の経済が成長期にあるか成熟期にあるかといった要素などに大きく依存しています。長いスパンでみた旅行需要が上昇傾向か横這いか、といったことは、主に後者によって決まってくるわけです。これが基調トレンドであり、私はこれがやや上向いてきた可能性があると考えています。

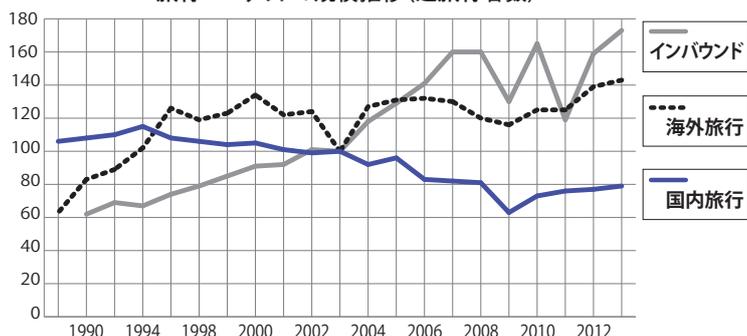
国内旅行ではこの変化が60代の人口分布が大きいことと、シニア層の旅行頻度が最も高いことが相まって、シニア層で目立つ結果となっています。一方、海外旅行では20代の旅行頻度が際だって高いために、若年層の変化、例えば「ひとり旅」の増加、といった現象を目立たせているのです。逆に言うと、若年層で起きている変化はシニア層や他の年代でも起きていると思われるのですが、シニア層の出国率が低い目立ちにくく、旅行会社の店頭などでは気付かれにくい可能性があります。また国内旅行ではシニア層だけでなく若年層も増加していると推測されるのですが、ボリュウムが小さ

黒須宏志  
旅行市場動向のリサーチャーとして講演・寄稿などで活躍中。公益財団法人日本交通公社の主任研究員。1964年生まれ。

く、同様に現場などでは認知されにくい可能性があると思います。

マーケットが変化する時はチャンスでもあります。普段目配りをしない客層にも注意を払い、思いこみに囚われていないかチェックすることが、将来の利益に結びつくと考えます。

旅行マーケットの規模推移(延旅行者数)



(注)国内旅行は宿泊観光旅行 (注)2003年を100とする指数  
(注)2013年の予測数値は(公財)日本交通公社による  
資料:観光庁「観光白書」、法務省、JNTO



●チュニジア ヒシム・ラジュエド氏



●アメリカ モーリーン・スミス氏

# 要人往来

諸外国からの要人の往来が頻繁になれば、業界もいちだんと活性化。2013年も多くのVIPの方々の来訪を歓迎します。



●タイ トンチャイ・スリダマ氏



●トルコ 閣下(右から2人目)と菊間会長を囲んで



●ハワイ マークマッカートニー氏

## 日本人観光客の増加を期待

チュニジア 11月29日(木)

駐日チュニジア大使館の参事官観光担当ヒシム ラジュエド氏 就任挨拶のためにJATAを訪問。「今後JICAの支援を得て、日本市場においてチュニジアの観光促進を行う予定です。現在、政治情勢が安定しており、日本からの観光客が安心して旅行できるでしょう。2012年の外国人観光客の受け入れは500万人規模となりますが、今後は特に日本からの観光客を増やしていきたい」と話されました。

## 2016年までに日本人観光客を200万人に

ハワイ 12月6日(木)

ハワイ政府観光局プレジデント/CEOマーク・マッカートニー氏 12月6日(木)、中村理事長らを訪問し、「2016年までに日本人の観光客を200万人まで増やしたい。また、『グローバルエントリー』プログラムについても時間はかかるとは思いますが、前進させるべく活動していきたい」と述べました。中村理事長は、「目標に向けて、日本とハワイが一丸となって、プロモーションをしていきたい」と応じました。

## Brand USA展開で日米観光交流の促進を

米国商務省 12月6日(木)

米国商務省の首席次官補代理モーリーン・スミス氏 JATA本部を訪問し。「2012年5月から開始されたBrand USAプロモーションでは、日本が重点市場に指定されており、今後も、日本への観光投資を継続して、日米観光交流の促進をより活性化させたい」と話し、中村理事長らとしばし懇談。

## MICE市場に積極的にアプローチ

タイ 12月7日(金)

タイ国政府コンベンション・エキシビション・ビューロー(TCEB)のアクティング・プレジデント、トンチャイ・スリダマ氏 中村理事長らと会談した同氏は、「TCEBはタイでの国際会議、インセンティブツアー、ミーティング、展示会に関するプロモーションやアドバイス、カウンセリングサービスを提供しています。日本からのMICE観光客を増やすべく、地方都市への直行便を運行させ、その地方のコンベンション・ビューローと積極的に情報交換していきたい」と話しました。

## DESTINATIONとしての知名度アップを

ハイチ 12月7日(金)

ハイチ共和国外務省投資担当のグレゴリー・メヴス氏

菊間会長を訪問し、ハイチのビーチや世界遺産といった観光素材を紹介、「ハイチ政府は観光を開発する方針を定め、外国から投資の誘致に取り組んでいます」とコメント。菊間会長は、「現在のクルーズ旅行に加え、リゾートとして促進されるのが良いのでは。まずは、ハイチに対する危険情報をレベルダウンさせるための働きかけが必要。加えて、日本のガイドブックへの掲載、JATA旅博で出展や観光セミナーを実施すれば、ハイチに関する認識が高まるでしょう」と述べました。

## 日本人客数35万人を目標に供給座席数を拡大

トルコ 12月10日(月)

トルコ共和国特命全権大使セルダル・クルチ閣下、トルコ航空東京支社長ハサン・ムトゥル氏

クルチ閣下一行と菊間会長が懇談。閣下は「来年の2014年は国交樹立90周年、またトルコ航空の日本トルコ間直行便の就航25周年で、1年をかけてトルコへの日本人観光客35万人を達成するという目標を定めました。その目標達成に向けて、まずは日本とトルコ間の座席供給を拡大させたいと思います」として、業界の協力を要望。菊間会長は、「トルコへのアクセスが拡大されれば、35万人の目標は現実的だと思いますが、これからその目標を達成するための具体的な計画を立てることが必要でしょう」と話しました。

## ブータン政府観光局日本事務所が開設

ブータン政府観光局日本事務所が開設され、1月1日より業務を開始しています。2011年のブータン王国国王ご夫妻の訪日効果もあり、ブータンを訪れる日本人観光客数はこのところ急増しています。本国のブータン観光局への問い合わせも増加しており、今回の日本事務所開設となったものです。なお、日本事務所の運営は株式会社エージーティー(辻泰正代表取締役会長)が担当します。住所:〒106-0002 東京都港区愛宕1丁目1-9愛宕チャンピオンビル2階 電話:03-5472-1151 / FAX:03-5472-1152 メール:japan@tourism.gov.bt 日本語サイトURL:<http://www.travel-to-bhutan.jp/>

# “Boosting Satisfaction” is the Keyword for a Tourism Nation Country 2013 is the Start of “Value Creation” in the Travel Industry



Chairman Kikuma

Last year, the Japanese travel market staged a rapid recovery following the setback from the Great East Japan Earthquake. In 2013, new trends are expected to accelerate, including the travel industry’s move toward autonomous creation of markets and expansion of destination-based travel products available only in select areas. We spoke with Norifumi Ide, commissioner of the Japan Tourism Agency, and Jungo Kikuma, chairman of JATA, concerning their expectations and aspirations for the new year.

### Desire to Raise the Development Capability of the Industry

-----How do you view the overseas travel market in 2013?

**Kikuma:** I think that 2013 will be the first year in which the travel industry itself autonomously creates markets. I see this year as being the start of value creation in the industry; until now, we have repeated various experiments, and now we plan to launch full initiatives beyond what we’ve done before. Due to the significant entry of low-cost carriers (LCCs) into the Japanese market and the rise of online agents, the role of the travel industry has become more sharply defined. Since direct sales by suppliers and price competition are becoming commonplace, we are arriving at the point in history when using a travel agent will be meaningless unless travel agents offer products that truly satisfy customers. In times like these, we ourselves must work independently to discover all kinds of appealing attractions at the destinations and create value and also to introduce the allure of travel in a more close-up manner. It is possible that travel agencies will be left behind, even if the number of travelers grows, unless we become autonomously involved and actualize a business model in which we ourselves create value through promotions, in collaboration with Team Europe in Europe and with ASEAN. With this year as the start, I want to strengthen the above areas and raise the development capability of the travel industry. East Asia alone makes up 50% of Japan’s overseas travel market; the fact that travel to Europe, ASEAN, Indochina, and North, Central, and South America is also expanding is leading to a need for crisis management so that the operations of the travel industry overall can keep up with the expansion. A major theme in 2013 will be how to assist member agencies in boosting their skills so that they can engage in such value creation.

**Ide:** Previously, the airline industry and others talked about creation of macro demand, and what is needed in the travel industry is the capability to develop travel products that are competitive content-wise. For example, when we see conventional travel agents lose a share of reservations to online booking, we tend to think of it as competition between the travel industry and the IT industry. However, I think it is actually competition between each travel agency’s know-how and knowledge of destinations versus the information available to consumers who use IT. Naturally, it is impossible for individual staff at travel agencies to win against all of that competition, and so the know-how and knowledge at travel agencies overall must outshine that of consumers. I think that



Commissioner Ide

such know-how and knowledge will support the development capability of which Chairman Kikuma spoke.

### Efforts to Improve Domestic Travel, Too

-----To promote Japan as a tourism country, what initiatives are you considering from here forward?

**Ide:** Japan has already succeeded completely as a trade-oriented country, and so no one is talking now about Japan being a trade-oriented country. The reason why the words “Tourism country” are being trumpeted now is that, in the field of tourism, Japan is still an emerging country. Fortunately, we are an extremely promising emerging country in the area of tourism resources; if we make an effort, we have a high potential for growth. Conditions make it difficult to acquire an adequate budget, but saying that the budget is insufficient won’t help matters. So, it is necessary to boost our cost performance, and we must utilize creative methods to do that. In domestic travel, we held the *Destination Tohoku Campaign* to support the revival of tourism following the Great East Japan Earthquake, and I think it is playing a large role as an engine of domestic tourism. Simultaneously, not only the local governments’ but also the local people’s enthusiasm and skills are increasing tremendously, and so in fiscal 2013, we want to promote projects to support regions which are trying out various creative ideas and engaging in their efforts with enthusiasm.

**Kikuma:** We have been highlighting the importance of satisfaction in inbound travel since Commissioner Ide assumed office. I think ensuring that people who visit Japan return home satisfied is an extremely important point. JATA plans to create a system to certify the quality of land operators as part of its policy to boost the quality of inbound travel and to make Japan a tourism-oriented country in the true sense. In addition to the large merits it has for visitors to Japan, I think we can also expect this certification system to promote local development through the creation of destination-based travel products that utilize the special features of each locality. By providing travelers with high-quality, safe, and relaxing travel experiences in Japan, the value of Japan as a destination should also rise. I think that offering high-quality, highly satisfying products that are differentiated from low-budget trips to Japan will lead to an increase in travel demand and a surge in repeat visitors. The quality of domestic travel should also improve through the locally-focused travel industry which will be launched. If the passion of the people who live in and love the local areas and who want others to experience the charm of the local areas is translated into destination-based travel products, quality will improve. JATA would like for each of its member agencies to create a wide variety of individualistic travel products, both large and small, for domestic travel, just as they do for overseas travel. In the “Tohoku (Northeastern region of Japan) Reconstruction Support 1,000 Project” held in December 2012, travel agents who only handle overseas travel did participate, but if travel agencies who handle domestic travel increase, the quality will improve, and so we would like to make efforts toward this.

# 1,000 Associates Enthusiastically Inspect 28 Courses in 6 Tohoku Prefectures Aomori Prefectural Governor Met and Spoke to Participants in Person



Governor Mimura(second from left), Chairman Kikuma(second from right) and Dr. Bernhard Zimburg, the Austrian Ambassador to Japan with the participants in Aomori VIP course

On December 3 and 4, JATA held the “Tohoku (Northeastern region of Japan) Reconstruction Support 1,000 Project” in which it sent member agencies’ staff and others to the Tohoku region in northeastern Japan.

Approximately 1,000 associates traveled a total of 28 courses, including the four courses set up in each prefecture, the VIP course for ambassadors from various countries, and courses offered by invitation such as in Aizuwakamatsu City. Participants conducted an enthusiastic inspection, seeking opportunities for commercial realization of travel products.

At the start-off ceremony held on the Shinkansen B3 concourse at JR Ueno Station in Tokyo early in the morning of December 3, JATA Chairman Jungo Kikuma reaffirmed that “we planned this project with the mission of energizing the Tohoku region through tourism.” He called on participants, saying, “Two days is a short time, but I want you to look intently at the Tohoku region and, through the eyes of professionals, to discover new things from the local people and the scenery.”

Participants on the VIP course included ambassadors from Austria, Columbia, and Bangladesh, embassy staff from Angola, Australia, Poland, Madagascar, and Lithuania, and staff from various countries’ airline companies and tourist bureaus. The governor of Aomori Prefecture, Shingo Mimura, met the VIP course participants in front of the prefectural office building, shook each person’s hands, and led them into the building. The governor, using a photo display panel, gave a humorous presentation on the attractions of Aomori’s four seasons, mixing his smattering of English with hand gestures.

In response to the governor’s heartfelt description, JATA Chairman Kikuma rejoined, “I can feel his strong determination to attract foreign tourists and reinvigorate domestic travel, and I want us in the travel industry to settle in and engage in reinvigoration of two-way tourism, both inbound and outbound. Through this project, we will publicize the attractions of Aomori, with the hope that it will contribute in some way to the revitalization of tourism in Tohoku.

In JATA’s “Tohoku (Northeastern region of Japan) Reconstruction Support 1,000 Project,” efforts were made to communicate with local people by holding opinion exchanges and social gatherings along the inspection courses in each prefecture together with JATA member agencies’ staff and others. On the Miyagi Prefecture course in which JATA Vice Chairman Hiromi Tagawa participated, an opinion exchange was held on the evening of December 3 with related local persons from Osaki City, Naruko Spa Tourist Association, and the Miyagi Osaki Tourism Bureau.

Referring to statistical data showing that visitors to Tohoku have declined approximately 10% since the March 2011 earthquake, Vice Chairman Tagawa said, “I think the decrease



The start-off ceremony held at JR Ueno Station for the “Tohoku Reconstruction Support 1000 project”

may be slightly larger if you look at the leisure market alone. Considering the actual market size that Tohoku has, I think there is a decline of 20% to 30% compared to two years ago.”

In addition, Vice Chairman Tagawa pointed out, “JATA must, together with the entire travel industry, stimulate the leisure market.” He expressed his determination, saying, “This year during which we worked on reconstruction from the earthquake, and moving ahead, I would like for the planning staff who participated in this inspection to endeavor to discover new attractions and to proactively promote product creation for the fourth quarter of this year and next fiscal year.

Meanwhile, Hisako Yamada, section manager of Industry and Economic Department of Tourism Exchange Section of Osaki City, explained, “During the 2011 earthquake, the seismic intensity in this area was 6+ on the Japanese scale. In the city, houses near the coast collapsed and roads were fragmented, but at Naruko Spa, there was no major damage either to the hot spring itself or the facilities.” Looking back on the sequence of events following the earthquake, she recalled, “We reached out to those in the disaster-stricken area on the coast and made arrangements so they could use Naruko Spa as a secondary shelter. People were sheltered at Naruko Spa until September 2011 when temporary housing and permanent housing were acquired. Even now, they come to the spa to seek solace, so we still keep connected.”

She called on the travel industry, saying, “When the project participants visited, we introduced our sake and sake breweries which are top quality because Osaki is blessed with the finest rice and water for making sake. However, that is just one of the many treasures we have, and so we ask everyone in the travel industry to be sure to send us many visitors.”

Takenobu Kikuchi, chairman of the Naruko Spa Tourist Association, emphasized, “I think that now is time when our original customer base will begin to return. I think the bad rumors will die down, but we need to make an effort.” He said, “We repaired the walking trail called Oku no Hosomichi with signs in four languages. This trail follows the path taken by the poet Matsuo Basho in the late 17th century, which we established it 30 years ago. The famous historical figures Minamoto no Yoshitsune and Matsuo Basho both passed through Naruko Spa; we want people to know this interesting fact, so we would like to ask your cooperation.”

Kenichi Kanno, manager of Sendai Miyagi Tourist Campaign Council explained about the Destination Campaign which will start in April 2013, saying, “We want the entire country to know that we have recovered our vitality and sparkle, and our primary themes are repose of souls, renaissance, learning, flowers, and food.” Pointing out that revival of tourism is also included in the prefecture’s disaster reconstruction plan, he urged project participants to “create travel products in Sendai and the remainder of Miyagi and to send visitors.”

## Outbound Japanese Travelers Declined 3.9% in November -Outbound Travelers to Set New Annual Record in the 18-Million Range

According to the estimate of outbound Japanese travel released on December 21 by the Japan National Tourism Organization (JNTO), the number of outbound Japanese travelers in November was 1.44 million, a decline of 3.9% year on year. This was the largest drop since September, which was the first time in 15 months (since June 2011) that the figure was negative year on year. In November 2012, the number dropped by 58,000, from 1.498 million the previous year.

The cumulative figure for January through November 2012 was 17,062,000, a 9.8% increase compared to the previous year's figure of 15,532,800 and an 11.3% increase compared to the 2010 figure of 15,328,000.

Because the cumulative figure up to November 2012 exceeded 17 million, it is nearly certain that number of outbound Japanese travelers in 2012 will surpass the 18-million mark. This will set a new record by outstripping the previous highest figure of 17.82 million attained in 2000.

The Japan Travel Bureau's 2013 Travel Trends Outlook released on December 20 predicts that outbound Japanese travelers will increase in 2012 by 8.5%, to 18.43 million.

Meanwhile, according to JNTO, the number of foreigners visiting Japan in November increased 17.6%, to 648,600. The cumulative figure for January through November rose by 36.0% year on year, to 7,678,900.

However, this is still 3.6% below the cumulative figure

for January through November 2010, which amounted to 7,962,795.

JTB's 2013 Travel Trends Outlook forecasts that inbound foreign travelers will increase in 2012 by 32.6% year on year, to 8.25 million.

Month	Japanese Overseas Travelers		(Unit: Persons)
	2011	2012	Change
1 Jan.	1,282,348	1,331,144	3.8
2 Feb.	1,391,193	1,572,587	13.0
3 Mar.	1,420,584	1,737,033	22.3
4 Apr.	1,114,906	1,410,963	26.6
5 May.	1,152,339	1,431,204	24.2
6 Jun.	1,267,227	1,481,674	16.9
1~6 Jan.-Jun.	7,628,597	8,964,605	17.5
7 Jul.	1,465,379	1,595,000	9.1
8 Aug.	1,786,412	1,965,000	10.0
9 Sep.	1,637,158	1,625,000	-0.7
10 Oct.	1,517,525	1,472,000	-3.0
11 Nov.	1,497,704	1,440,000	-3.9
1~11 Jan.-Nov.	15,532,775	17,062,000	9.8
1~12 Jan.-Dec.	16,994,200		

JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION

## Overseas Travelers will Exceed 19 Million in 2013, Predicts JTB Foundation's Senior Researcher Kurosu

The Japanese travel market (domestic and overseas) has been stagnant for an extended period, since the late 1990s, but starting around 2010, a change seems to have appeared in the underlying trend. Hiroshi Kurosu, senior researcher at Japan Travel Bureau Foundation, a public interest incorporated foundation, explains as follows concerning this change and the outlook for travel in 2013.

Based on market trends and the business outlook as of early December 2012, Kurosu predicts that, in travel in 2013, we will see a slight increase in leisure trips that include domestic lodging ("domestic travel"), and in overseas trips, outbound travel will reach 19 million (a 2.7% increase given 18.50 million travelers in 2012) and inbound travel will rise to 9 million (an 8.4% increase given 8.3 million travelers in 2012).

Looking at domestic travel and overseas travel in total,

Kurosu believes that the underlying trend in the Japanese travel market may have shifted in 2010. While travel demand is affected in the short term by alterations in the external environment such as economic fluctuations and the exchange rate, there are other major factors that change slowly over a long time span, such as the ratios of young people and seniors in the population and whether the national economy is in a growth phase or a mature phase. Whether travel demand is growing or flat over a long span is determined mainly by the latter factors. Kurosu thinks that these factors which govern the underlying trend may be pointing toward a slight uptrend in travel.

Kurosu points out that it is important to pay attention to customer segments that you might normally not watch and to check that you are not shackled by assumptions.

# 事務局 便り

明けましておめでとうございます。新年号の巻頭を飾る井手観光庁長官と菊間会長の新春対談はいかがだったでしょうか。本欄担当者としては、旅行業界とITとの競争について井手長官が、「個別の旅行会社のノウハウやデスティネーションの知識と、ITを使った消費者の知識との競争」と指摘されたこと、菊間会長が「2013年は旅行業価値創造元年」と位置づけ、「旅行業界の開

発力が問われる」と話されたことがたいへん印象に残りました。新年にあたりここは、表面的な言葉だけでない、お二人のコメントの底流にある本質をじっくりと考えてみたいと思います。

本年も菊間会長、田川副会長、吉川副会長、役員のご指導を受け事務局一同全力で職務遂行にまい進してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## ●JATA業務予定表1月10日(木)～3月14日(木)

※予定表は変わることがあります。詳しくはJATAホームページ(会員限定ページ)をご覧ください。

### 本部・支部の委員会(予定)

1月15日	幹事会／中四国支部
1月15日	IT・e-TBT部会／本部
1月16日	福岡地区委員会／九州支部
1月17日	旅行業法制度研究部会／本部
1月18日	訪日旅行推進委員会／本部
1月18日	空港委員会／中部支部
1月18日	DS魅力アップ事業ワーキンググループ／本部
1月23日	教育研修委員会／九州支部
1月23日	法制委員会／本部
1月24日	国内旅行推進委員会／本部
1月30日	海外旅行推進委員会／本部
1月31日	広報委員会／本部
2月7日	海外旅行委員会／関東支部
2月12日	研修・試験委員会／本部
2月14日	総務委員会／関東支部
2月19日	インバウンド委員会／関東支部
2月21日	旅行業法制度研究部会／本部
2月25日	関東観光アドバイザー委員会／関東支部
2月26日	国内旅行委員会／関東支部
2月27日	幹事会／関東支部
3月14日	旅行業法制度研究部会／本部

## ●JATA主催・共催の研修・セミナー等活動

※JATA正・協力会員を対象とした研修・セミナーであり、すでに申込受付締切をした研修・セミナーもあります。

1月10日	訪日外国人受入促進地域フォーラム(栃木)／訪日旅行推進委員会
1月11日	苦情対応セミナー(那覇)／業務改善委員会
1月13日～14日	広島空旅(府中)／中四国支部
1月15日～28日	アメリカ深堀りセミナー／海外旅行推進委員会
1月15日～18日	旅程管理研修(東京)／研修・試験委員会
1月17日	苦情対応セミナー／業務改善委員会
1月18日	香港MICEセミナー(名古屋)／海外旅行推進委員会
1月22日	苦情対応セミナー／業務改善委員会
1月22日～25日	旅程管理研修(仙台)／研修・試験委員会
1月23日	第1回ユニバーサルツーリズム実践セミナー／社会貢献委員会
1月28日～31日	旅程管理研修(那覇)／研修・試験委員会
2月6日	苦情対応セミナー(徳島)／業務改善委員会
2月7日	第2回ユニバーサルツーリズム実践セミナー／社会貢献委員会
2月7日	苦情対応セミナー(高知)／業務改善委員会
2月8日	苦情対応セミナー(米子)／業務改善委員会
2月19日	タイムMICEワークショップセミナー(札幌)／海外旅行推進委員会
2月21日	タイムMICEワークショップセミナー(東京)／海外旅行推進委員会
2月26日	JATA経営フォーラム2013／旅行業経営委員会
3月1日～3日	赤十字救急員養成講習会／社会貢献委員会
2月21日	タイムMICEワークショップセミナー(東京)／海外旅行推進委員会
2月26日	JATA経営フォーラム2013／旅行業経営委員会
2月28日～3月5日	総合旅程管理海外実地研修(トルコ)／研修・試験部
3月1日～3日	赤十字救急員養成講習会／社会貢献委員会

※申込受付:1月18日(月)まで「第9回デスティネーション・スペシャリスト認定試験」の申し込みを受付けています。詳細:<http://www.traco.jp>



**Taiwan**  
THE HEART OF ASIA

## Time for Taiwan

思い立ったが台湾吉日



**台湾観光局**  
<http://jp.taiwan.net.tw/>

台湾観光協会

●東京事務所 〒1105-0003 東京都港区西新橋1-5-8 川手ビル3階  
TEL(03)3501-3591 FAX(03)3501-3586  
●大阪事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満4-14-3 住友生命御堂筋ビル6階  
TEL(06)6316-7491 FAX(06)6316-7398

# 視察に手ごたえを感じた2日間 各県4コースを基本に延べ200カ所以上を訪問

## 東北方面の販売強化と 斬新な商品展開に期待

今回のJATA東北復興支援プロジェクトでは、6県で基本的に4コースずつが設定されました。それぞれの視察ツアーにおける訪問先数は延べ200カ所以上にも及んでいます。海外旅行が専門という会員企業からの参加もありましたが、それでも多くの旅行会社が国内旅行を取り扱っているなかで、「ほぼ全員が初めての訪問」という場所も少なくありませんでした。



今回の研修では延べ200カ所以上を訪ねました

## 秋田県のCコースに参加した会員会社の担当者による「東北へのお客様集客と販売強化のため、今回の研修で学んだことを今後の商品企画や商品造成に反映させたい」という声に象徴されるように、これまでの東北地方のツアー商品では定番となっていた観光スポットだけにとどまらず、新しい観光資源や観光素材の活用も含めて、東北ツアーの多様化や着地型・体験型の要素をふんだんに盛り込んだ斬新な商品展開が大いに期待されるそうです。



視察に期待が膨らみます



東京・JR上野駅の職員の方々に送られて、さあ出発

## 商品企画コンテストに 多数の応募

JATAでは、今回の東北復興支援プロジェクト「行こうよ!東北」の展開を踏まえて、商品企画コンテストを実施しました。

12月28日の締め切りまでに、多数の応募をいただきました。応募作品については、1月24日に開催される国内旅行推進委員会にて審査を行います。なお、入賞作品については、2月上旬にホームページに掲載する予定です。

## JATA東北復興支援プロジェクト「行こうよ!東北」コース別・主な訪問先

青森	A	十和田市内、十和田湖遊覧船、薦温泉、八甲田ロープウェイ、ねぶたの家ワラッセ、A-FACTORY、三内丸山遺跡、青森県立美術館、旬美館
	B	八食センター、是川縄文館、櫛引八幡宮(国宝館)、はっち、みろく横丁、古牧温泉、寺山修司記念館、種差海岸、五戸町ミートプラザ尾形、ユートリー
	C	浅虫温泉(椿館)、下北名産センター、栗研温泉、大間崎、まさかりプラザ
	D	三内丸山遺跡、斜陽館、立佞武多の館、弘前、りんご選果場、市立観光館・洋館めぐりレストラン山崎、川崎藍染工場、ねぶた村
	E	浅虫温泉・海扇閣、椿館(棟方志功作品鑑賞)、八甲田、青森県庁、ねぶたの家ワラッセ、A-FACTORY、青森県立美術館、三内丸山遺跡、旬味館
秋田	A	大館・花膳、鳥湯会館、大館、大湯温泉、小坂町鉱山事務所、日本最古の芝居小屋康楽館、尾去沢鉱山、鹿角あんたらあ、旧関善酒店、鹿角花輪
	B	小玉酒造・ブルーホール、大湯村干拓博物館、男鹿温泉、なまはげ太鼓、男鹿水族館GAO、なまはげ館・伝承館、入道崎、なまはげ立像
	C	田沢湖、湖畔の杜レストランORAE、たつこ像、山のはちみつ屋、妙乃湯温泉・蟹場温泉、田沢湖高原、抱返り溪谷、角館、増田のまちなみ・内蔵見学、旧池田氏庭園
	D	天籟村、羽後本荘、由利高原鉄道、矢島、天寿酒造、猿倉温泉、蛸満寺、白瀬南極記念館、無限堂大町本店、ねぶり流し館、平野政吉美術館、エリアなかいち
岩手	A	一ノ関、平泉文化遺産センター、平泉レストハウス、中尊寺、毛越寺、達谷窟沙門洞、花巻温泉郷、遠野風の丘、鶴住居地区防災センター、大槌町役場・小鏡神社、釜石駅はまゆり飲食店街・サンフィッシュシープラザ、釜石観音
	B	陸前高田市、碓石海岸レストハウス、穴通磯、おさかなセンター、えさじ藤原の郷、花巻温泉郷、毛越寺、無量光院跡、義経堂、中尊寺
	C	龍泉洞、うれいら通り商店街、岩泉、小本、三陸鉄道、田老、浄土ヶ浜(遊覧船)、三陸物産センター石川、宮古市魚菜市場
	D	龍泉洞、田野畑、北山崎、のだ塩工房、久慈琥珀博物館・くんのこ、土風館・水族館、天台寺・滴生舎
山形	A	高島、昭和縁結び通り商店街、高島ワイナリー、丹野こんにゃく番所、櫛下宿、旧尾形家住宅、上山温泉、山寺、若松寺、手打水車そば、文四郎麩、紅花資料館
	B	出羽屋、朝日町ワイン城、慈恩寺、柏倉九左エ門家、天童温泉、若松寺、文四郎麩、そばやかた樽石、紅花資料館、最上義光歴史館・霞城公園
	C	上杉伯爵邸、上杉神社、米沢ラーメン食べ歩き、高島ワイナリー、丹野こんにゃく番所、山形蔵王温泉、山形県郷土館、文翔館、山寺、若松寺、建勲神社
	D	あらい伊達な道の駅、古口港(最上川舟下り)草葺温泉、致道博物館、湯野浜温泉、出羽の雪酒造、漬物処本長、山居倉庫、NKエージェンツ、相馬楼、羽黒山五重塔
宮城	A	石ノ森章太郎記念館、みやぎの明治村、南三陸町、南三陸温泉、気仙沼市内ボランティア活動、くりこま高原
	B	岩出山散策(竹工芸館、森民酒造ほか)、凧・上の家、あらい伊達な道の駅、鳴子温泉、中尊寺、石巻、高政「万石の里」、女川・きぼうのかね復興商店街
	C	多賀城跡、塩釜商店街よここっつ食べ歩き、松島五大堂・瑞巖寺等、円通寺、松島、若林区ボランティア活動
	D	五大堂、瑞巖寺、円通院、名取市閑上地区
福島	A	土湯温泉、山水荘、喜多方市内、東山温泉、鶴ヶ城(天守閣と八重の紙芝居)、鱸閣、八重生誕の地、大龍寺(山本家の墓)、飯森山・とらぞう、七日町、大内宿
	B	医王寺、飯坂八幡神社、飯坂温泉、旧堀切邸、岩代屋敷大王、フルーツライン、コラッセ
	C	白河、小峰城、手打ち蕎麦処・吉田屋、隠れた戊辰の史跡、南湖公園
	D	いわき市石炭化石館ほるる、白水阿弥陀堂、塩屋崎、いわき・ら・ミュウ

# 慈恩寺 [山形県寒河江市]

素材研究  
(国内)



薬師三尊像 日光・月光菩薩(鎌倉時代)「国指定重要文化財」



本山慈恩寺本堂「国指定重要文化財」



阿彌陀如来像(平安時代)「国指定重要文化財」



本山慈恩寺三重塔「県指定文化財」



本山慈恩寺正門

国による史跡指定で地域の観光拠点に  
60件超える指定文化財を軸に整備計画

今回のJATA東北復興支援1000人プロジェクトでは、東北6県の各地で様々な地域の観光資源や観光素材を視察しました。その中から、江戸時代には東北随一の巨刹として栄え、現在は、山形県寒河江市が同市の観光拠点として国による史跡指定を目指す本山慈恩寺を紹介します。

## 江戸時代に栄えた東北随一の巨刹

8世紀の半ば、746(天平18)年の開基と伝えられる本山慈恩寺は、最盛期には弥勒堂を中心にした最上院・宝蔵院・華蔵院の三か院と付属する48坊からなっていた二山組織の寺院です。現在は三か院17坊となりましたが、江戸期の寺領は18か村にまたがり、1665(寛文5)年には御朱印高2812石余を幕府から与えられ、東北随一の巨刹として栄えました。

東大寺大仏開眼供養の導師も務めたバラモン僧正・菩提僊那(ぼだいせんな)が、聖武天皇の勅命によつて開いたという古い歴史を持つ境内には、本堂(弥勒堂)、薬師堂、山門、三重塔などが厳かに立ち並んでいます。

国や県、市の指定を受けた文化財は62件にもおよび、薬師堂にある薬師三尊(薬師如来・日光菩薩・月光菩薩)と薬師十二

神将は国の重要文化財に指定されており、卯神将と巳神将は海外で開催された国際彫刻展に日本を代表して出陣されたこともあります。

1618(元和4)年に完成した本堂も、桃山建築の様式を残す国の重要文化財です。

慈恩寺はもともと法相宗の寺院でしたが、平安後期には天台宗、鎌倉時代の初めには真言宗、さらに、室町時代に入ると時宗も入つてきて、複数の宗旨が併存する珍しいお寺としても知られています。

## 映画「男はつらいよ」の撮影現場にも

荘厳な色彩の強い慈恩寺ですが、国民的人気映画「男はつらいよ」シリーズの第16作「葛飾立志編」では、ロケ撮影の現場にもなりました。昨年亡くなった大滝秀治さん演じる老僧に、「子のたまわく、あしたに道を聞かば、ゆうべに死すとも可なり」という論語の一説を寅さんが教わる場面は、華蔵院の階段で撮影されています。

寒河江市では現在、慈恩寺と周辺地域について、文部科学省による史跡指定を受けるための準備を進めており、来年度には申請が行われる見通しです。同市情報観光課の安孫子政一課長は、「市の振興計画でもその整備が重点プロジェクトに位置付けられており、慈恩寺を名実ともに観光振興の拠点として確立したい」と意欲を示しています。

# 伝統の祭から防災学習まで

## 地域に根差した観光素材が目白押し

全国各地で地元の視点に基づく地型・体験型の素材発掘やプログラム開発が進む中、JATAによる復興支援プロジェクトの研修ツアーでも、それぞれの地域の歴史や風土、生活文化などに基づく東北ならではの個性あふれる多くの観光資源の魅力が、地元の皆さんの熱い思いとともに参加者に伝えられました。

### 青森県

#### 参加者の声

「ねぶたの家ワラッセは施設が立派で、展示物や内容もリアリティがあり興味深い」

「立佞武多の館では、五所川原のねぶた復活にかける市民の熱意が伝わった。復活のため、電線を地中に埋めるなど、行政も一体となった取り組みには感服した」

#### ◎ねぶたの家ワラッセ(青森市)



青森市の「ねぶたの家ワラッセ」では、迫力あるねぶたを見ることができます



太宰治記念館「斜陽館」も視察

の民芸品の製作体験、五所川原ネブタのお囃子の練習など様々なイベントも行われている。

ねぶた祭の歴史や魅力を紹介し、

ねぶたの全てを通年で体験できる施設として2011年1月にオープン。1階の「ねぶたミュージアムねぶたホール」では、祭本番に出陣した5台程度の大型ねぶたのほか、中型ねぶたやねぶたのパーツなどが展示紹介されている。

#### ◎立佞武多の館(五所川原市)

立佞武多祭りに出陣する大型立佞武多が常時格納・閲覧できるほか、新作立佞武多の製作体験、津軽

### 秋田県

#### 参加者の声

「各自自治体の方、施設のガイドの方から、丁寧かつ熱心にご案内いただき、期待の大きさを感じた」

「『曲げわっぱ』以外にも体験メニューや産業遺産等、新鮮な素材が多く、地域からのさらなる情報発信が望まれる」

「各自自治体は、特に、首都圏からの観光客を熱望されており、新たな観光名所キャラクター・グルメなどに注力している」

#### ◎曲げわっぱ(大館市)

きこりが杉柁で曲物の器を作ったことに始まったとされている。大館曲げわっぱ体験工房では、体験キットを選んで、工程を楽しみながら、手作り体験することができ。完成まで、インストラクターが丁寧にサポートしてくれる。



PTSの村山社長(左から2人目)も曲げわっぱ作りを体験

#### ◎増田内蔵めぐり(横手市)

横手市増田町では伝統的な建物を通年公開しており、現在、14棟の蔵がボランティアガイドなどによって案内されている。



横手市増田町では伝統建築の「増田内蔵」を見学

### 岩手県

#### 参加者の声

「震災学習は全ての人に体験いただきたいが、特に学生への販売を強化したい。九州や広島、沖縄で行われている平和学習同様、修学旅行に組み入れた提案が必要。震災学習の『語り部』さんたちは、まさに3・11を体験した第1世代であり、語り継ぐという選択をされた勇氣に込めていきたい」

#### ◎学ぶ防災ガイド(宮古市)

宮古観光協会では昨年4月から被災地の田老で案内ガイドを実施してきている。総延長が2433メートルあった防潮堤の上からの案内と同時に、3階まで津波で流された観光ホテルで撮影された映像も上映。田老の被災状況をみてもらい、防災の意識を高めてもらうことを目指している。



3階まで津波で流された「たろう観光ホテル」



気仙大工左官伝承館を視察

**山形県**

**参加者の声**

「各地の観光協会の皆さんは、着地型商品を開発することが必要と考えています。当社は、旗持ちの催行確定が多いので、この強みを使い、今後、現地発着の商品も売り出す予定です。その時に、商品として組み込んでいきたい」

「ダイナミックパッケージの開発を進めており、着地型商品の販売も考えています。東北各都市発着のサイト構築も検討しており、お手伝いできる可能性は大きいと思っています」

「今回の視察コースは、初めての訪問地。観光施設ばかりでした。関係者の皆様の貴重なお話も聞くことができたので、社内で情報を周知させていきたい」

◎紅花資料館（山形県西村山郡河北町）



紅花でハンカチの絞り染め体験も(河北町紅花資料館)

山形県の県花でもある紅花は、江戸時代には「最上紅花」として京の都では「金」の価値があるものとして珍重された。近郊きつての富豪だった紅花商人の屋敷を修復した紅花資料館では、紅花でハンカチの絞り染めを体験できる。



酒田市にある相馬楼の舞妓演舞



昼食を兼ねて最上川のこたつ舟も体験

**宮城県**

**参加者の声**

「海外の担当ではあるが、国内のセクションに伝えるとともに家族友人・知人に東北旅行を勧めたい」

「観光ボランティアガイドや意見交換会で伺った生の声を会社で共有

し、企画造成に役立てたい」

「各地で地元を案内いただいた観光ボランティアが非常に熱心にお話いただいたのが印象的で、旅行企画に組み込みたい」

「震災で被災した精神的な傷は簡単には癒されません。たくさん観光客が東北を訪れて地元の方の話を伺って痛みを共有し、語り継いでいくことが『心の復興』の一助となるかと思っています」

◎南三陸町学びのプログラム(宮城県南三陸町)

東日本大震災から間もない昨年8月から、震災の被災体験を伝える着地型・体験型の新たなアプローチとしてスタート。教育旅行や企業の研修旅行を中心に1万人を超える参加者を集めており、地元では、旅行会社によるツアーへの組み込みも視野に入れている。



被災の語り部の方のお話も伺いました(南三陸町)



日本三景のひとつ松島にある国宝の瑞巖寺も視察



宮城出身の著名な漫画家、石ノ森章太郎ふるさと記念館(石巻市)

**福島県**

**参加者の声**

「震災からもうすぐ2年になりますが、風評被害や様々な問題でいまだに苦しみ、闘っておられるのだと考えさせられ、旅行業の人間が率先して被災地を盛り上げていかなければと改めて思いました」

「会津若松の『八重の桜』にかける思いを感じる事ができた。関西からも商品造成して、現地へ送客していきたい」

「3月から『八重の桜』をテーマに周遊型のツアーを造成します」

◎新島八重

1月からスタートしたNHKの大河ドラマ「八重の桜」の主人公。ドラマでは、激動の幕末から明治をたくましく生き「幕末のジャンヌダルク」と呼ばれた八重の物語が会津を舞台に繰り広げられる。原発事故による風評被害の完全払拭と観光誘客の拡大へ向け、地元期待が高まっている。



鶴ヶ城(会津若松市)



八重生誕の地(会津若松市)



江戸時代の宿町町を再現する大内宿(南会津郡下郷町)



茶畑ではのんびりとした時間が流れています



英国統治時代の雰囲気が残るこのようなホテルもあります

世界第3位の高峰カンチェンジュンガを望む



世界遺産のトイトレイン

## ヒマラヤ山麓に広がる紅茶の里 英領インド時代のコロニアルな雰囲気も漂う

紅茶の産地として、日本でも世代を超えて全国区の知名度を誇る「ダージリン」。インドの北東部・西ベンガル州に位置するダージリンは、香り高い紅茶の里という顔の他にも、世界第3位の標高を誇るカンチェンジュンガを望む山岳都市、世界遺産にも登録されているアジア最古の登山鉄道のターミナル、そして、旧・英領インド時代のコロニアルな雰囲気を残す町など、様々な顔を持っています。

### アジア最古の登山鉄道は世界遺産

紅茶の名前で世界的に知られる町が開発されたのは、1800年代前半のことでした。西ベンガル州の州都であるコルカタは、デリーへの遷都が行われるまで、英語化された「カルカタ」としてインドの首都でもありましたが、そのカルカタの暑さに耐えかねた英国人たちが避暑地として開いた町がダージリンだったのです。

1881年には鉄道が完成し、現在も「トイトレイン」の愛称で町のシンボルとなっている蒸気機関車が運行を開始。ダージリン・ヒマラヤ鉄道は、標高1144メートルのニュージャルパイグリと標高2143メートルのダージリンの間を8時間で結んでいます。線路の幅がトロツコと同じ61センチ

がなく、時速は人間が早足で歩く程度の10数キロ。ジグザグに敷かれた線路でスイッチバックや急勾配では線路に砂をまき車輪が滑るのを防ぐ技術なども工夫されました。1999年には、世界遺産にも登録されています。

### カンチェンジュンガの絶景と出会う

ダージリン観光の目玉の一つが、郊外にあるタイガーヒル展望台から望むカンチェンジュンガの絶景です。タイガーヒル展望台も約3000メートルもの標高があり、そこから世界3位の高さを誇る8586メートルのカンチェンジュンガを見通す眺望は、ヒマラヤの醍醐味を十二分に堪能させられます。

天候によっては、その眺望を得ることができない場合もありますから、ダージリンを訪問する時期としては、天候が安定している11月から1月にかけてがベストシーズンです。

ホテルの少ないダージリン地域ですが、イギリス統治時代の紅茶農園オーナーの邸宅を改装したヘリテージホテルでは、朝のモーニングティーや午後のハイティーなど、紅茶の里・ダージリンならではのゆつくりとした時間を過ごすことができます。

# JATA旅博2013

JATA Travel Showcase 2013

2013年9月12日(木)～15日(日)  
東京ビッグサイト 東1・2・3・6ホール

主催：一般社団法人 日本旅行業協会(JATA)  
後援(予定)：国土交通省、国土交通省観光庁、外務省、東京都



## 出展申込 受付中!

申込期日 4/30(火)

早期割引  
**8%**  
off!  
申込期日  
2月15日(金)

総来場者数  
**125,989名**  
を記録!! (2012年度)

156の国と地域から、708企業団体が出展  
アジア最大級の“体感型”旅行産業イベント!

- アジア最大級の旅行展示会でFace to Faceのプロモーションフィールド
- 会場規模拡大! 業界人とのネットワーキングの機会創出
- アジアを代表する、国際商談会、国際観光フォーラム、旅博、顕彰事業

出展のお申し込み・お問い合わせ先

**JATA旅博推進室**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-3 全日通霞が関ビル4F

TEL:03-5510-2004 FAX:03-5510-2012 Email:event@jata-net.or.jp

【一般向けHP】 <http://www.tabihaku.jp/>

【業界向けHP】 <http://www.jata-jts.jp/>



【公式Facebook】

<http://www.facebook.com/tabihaku>



【公式Twitter】

@tabihaku

# JATA会員企業向け有料サービスのご案内

JATAとしてのスケールメリットを活かした会員様向けの各種サービスの一覧です。各社のリスクマネジメントに役立つ制度、費用節減に資する制度、及び販売拡大に利用できる制度等があります。

## JATA海外緊急重大事故支援システムのご案内

### 海外で万一の重大事故が発生した場合、緊急事故対応は大丈夫ですか？

1. 支援システム発動対象は海外の企画旅行(募集型・受注型)です。
2. 支援システム発動条件は「1名以上の死亡事故」等より発動になります。
3. 年会費は42,000円(うち消費税2,000円)になります。

JATA支援システムは、会員専用の「24時間緊急サポートデスク」を提供します。365日、24時間体制で、事故処理対応に関する相談受付・アドバイスを実施します。

安価な費用で安心のバックアップが得られる

「JATA海外緊急重大事故支援システム」へのご加入を「企業防衛」のためにぜひご検討ください。

#### <国内支援オプションサービス>

2010年度(第14期)より、JATA支援システム利用会員が実施する国内の企画旅行中(募集型・受注型)に、緊急事故処理が発生した場合、企画旅行会社の対応を支援するための「国内支援オプションサービス」が設けられました。



<主な対応事例>

釜山 射撃場火災事故

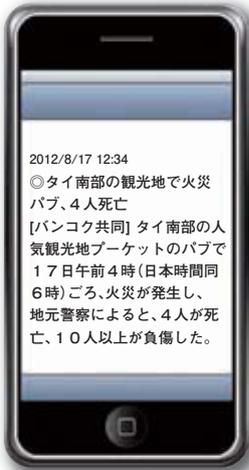
お問い合わせ

日本アイラック株式会社 TEL 03-5360-1391

## 海外リスク速報メールサービスのご案内

共同通信社では、海外支社局や提携通信社が配信する事件・事故・災害・テロ・伝染病などの情報を、携帯メールとウェブサイトでご覧いただける「海外リスク情報」を提供しています。

本サービスは外務省をはじめ、海外に拠点を持つ多くの企業様にご利用いただいております。**JATA海外緊急重大事故支援システム加盟社**の皆様には、株式会社ジャタを通じて特別パッケージをご提供しております。安全な旅行を企画提案するために、「海外リスク情報」をぜひご活用ください。



★速報メール 携帯電話1台、1年間12,600円(税込)〈1ヶ月あたり1,050円〉

海外の事件・事故・災害などの**第一報**を、携帯メールへ配信します。

<速報メール見出し例>

- ◎在留邦人に注意呼び掛け 在中国日本大使館
- ◎西ナイル熱で26人死亡 感染最多、米南部中心
- ◎レバノンで20人以上拉致 サウジが即時退避勧告
- ◎邦人含む140人食中毒か 中国海南省のホテル
- ◎世界遺産に山火事被害 スペイン領カナリア諸島
- ◎景福宮のそばで火災 ソウルの王宮

お問い合わせ 株式会社ジャタ TEL 03-3504-1751 E-mail mail@yu-jata.com

株式会社ジャタはJATAの会員サポート拡大を目的として旅行業に係わる団体制度を取扱う会社です。

## JATA従業員災害補償制度のご案内

- ・業務中 ・通勤途上中
- ・地震、噴火、津波時の労働災害の備えに

《健康・医療の無料相談サービス》

■24時間電話健康相談サービス ■メンタルケアカウンセリングサービス

お問い合わせ

株式会社 ジャタ TEL 03-3504-1751

AIU保険会社 東京第六支店 営業二課 TEL 03-5637-0721



行き先が決まったら、旅行保険もお忘れなく。AIUなら、国内でも海外でもあなたの旅に大きな安心をお届けします。

